

## 第5章

### 資料

# 感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(57)

(平成20年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5 白楽コミュニティプラザ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区宮元町3-55	731-2308
北浜医院	南区別所3-8-3-1F	712-1700
あずま医院	南区庚台58	231-7026
木庭医院	港南区野庭町672-5	844-2665
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区釜利谷東2-1-1 ハザル金沢文庫4F	783-5769
林内科眼科クリニック	金沢区並木2-10-5	785-2000
金沢中央医院	金沢区六浦2-6-8	783-7931
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区太尾町946-1	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
皆川小児科	緑区中山町305-20 レオナードビル中山1F	933-1134
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
岡本診療所	青葉区青葉台1-29-5	981-9541
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082

葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルテゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
川上診療所	戸塚区川上町359	822-5074
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
萩原医院	戸塚区上倉田町1004-1	861-2823
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい14FB	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉町2812	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイビル 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
かなた内科クリニック	瀬谷区中央6-20 マルイ瀬谷店3F	300-3039

小児科定点(88)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
田中小児科医院	鶴見区東寺尾2-15-34	581-2880
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
小児科佐久間医院	鶴見区馬場4-31-15	581-2604
山崎医院	鶴見区東寺尾6-32-15	581-4003
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央4-43-6	506-3657
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
相見小児科医院	神奈川区七島町148	421-2972
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イースタービル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
弘明クリニック	南区通町4-84マルハイ弘明寺2F	721-3611
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
大川小児科医院	南区万世町2-27	231-4443
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科・アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
八木小児科医院	港南区野庭町599-9	845-1177
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル3F	336-2260

おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ヶ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ヶ谷区上管田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58 大洋ビル2F	361-0212
サンクリニック	旭区柏町97-8	366-6822
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
左近山クリニック	旭区左近山1186-2 左近山団地7-14-101	351-6541
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区西町6-39	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野ビル2F	785-1152
江原小児科医院	金沢区並木1-14-2	773-8533
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2階-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
太尾こどもクリニック	港北区太尾町517	531-2525
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
津崎小児科	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアハルス鴨居1F	933-0061
吉田小児科医院	緑区霧が丘3-8-3	921-5851
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
武沼小児科医院	青葉区青葉台1-13-13	981-6122
あざがみ小児クリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムズ有本101	901-6870
あかねファミリークリニック	青葉区あかね台1-17-38	985-6607
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
都筑メディカルクリニック	都筑区荏田南1-12-16	943-8801
こどもの木クリニック	都筑区荏田南3-1-7	947-1888
マサカ小児科内科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2354
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566

ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
東戸塚小児クリニック	戸塚区品濃町535-2 ニューシティ東戸塚タワーシティ1st302	825-1799
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビル 1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
緑園こどもクリニック	泉区緑園2-1-6-201	810-0555
はっとり小児科	泉区和泉町2860-1	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・テ・パーティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルビル内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

#### 眼科定点(18)

医療機関名	所在地	電話番号
ちくさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トマビル4F	502-0222
安田眼科医院	神奈川区反町1-6-12 リンパリアンサ1F	313-2022
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
山科眼科	南区別所3-8-3	731-0010
池袋眼科医院	港南区上大岡西2-9-24	842-0380
小野江眼科	保土ヶ谷区帷子町1-12	335-2171
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5 丸伊ビル2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ヴィラ綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
中山北口眼科	緑区中山町306-1 ミヨシシートビル502	930-3090
太田眼科医院	青葉区美しが丘1-23-3	901-1385
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10 第3フジモビル2F	985-3719
浜崎眼科医院	都筑区勝田町1298-2	949-4222
秋元眼科医院	戸塚区柏尾町1016	822-2520
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 緑園都市ライフ2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

#### 性感染症定点(26)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚・泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄Kビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮膚科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
公平泌尿器科医院	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
中尾泌尿器科医院	港南区上大岡西1-19-17 ロッキークタ第2ビル4F	845-9620
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
杉本皮膚科	保土ヶ谷区川辺町2-2 ハイロッドハウス星川B-108	333-4422

小関産婦人科医院	旭区二俣川2-62-7	363-0660
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
片桐レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
市川宝クリニック	港北区綱島西1-11-18	543-1103
田口メディカルクリニック	緑区台村町177-1 フォーサイト1F	932-0303
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖ローザクリニック センター北	都筑区中川中央1-29-24 アピテノール3C	914-6355
山本内科・タワーズ皮膚科	戸塚区品濃町535-2 中央街区D棟306	825-5871
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19 斉藤ビル2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
高橋皮膚・泌尿器科医院	瀬谷区瀬谷3-19-2	301-3266

### 基幹病院定点(3)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	974-8143

### 病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
室橋内科医院 (内科)	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科 (眼科)	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック (小児科)	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルダ2F	844-7577
横浜市南部病院 (基幹)	港南区港南台3-2-10	832-1111
関小児科医院 (小児科)	保土ヶ谷区今井町69	351-5868
横浜市立市民病院 (基幹)	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
矢崎小児科 (小児科)	磯子区磯子2-13-13	751-4378
石井内科医院 (内科)	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
南澤医院 (内科・小児科)	港北区日吉本町1-2-16	561-5413
古館内科小児科医院 (内科)	金沢区釜利谷東2-1-1	783-5710
有本小児科内科 (小児科)	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
昭和大学藤が丘病院 (基幹)	青葉区藤が丘1-30	974-8143
内科・小児科むかひら医院(内科)	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
中条小児科医院 (小児科)	栄区上之町8-7	892-2583
瀬谷こどもクリニック (小児科)	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
清水小児科 (小児科)	瀬谷区阿久和西3-1-13	360-9191

疑似症定点(単独は72定点、内科定点57小児科定点88を加え217定点)

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイスビル3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 フーガビル505号室	576-3370
鶴見皮ふ科泌尿器科	鶴見区鶴見中央4-2-14 マルハビル3F	501-7181
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ビル一階	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあびる1F	488-5123
井関医院	神奈川区栄町6-1 ヨコハマポートサイドロア式番館1F	451-6864
朝日内科クリニック	神奈川区六角橋1-6-14 白楽メディカルセンター2F	439-3788
ななしまクリニック	神奈川区七島町161-5	401-9884
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
まつい内科医院	中区野毛町1-11-1 1F	243-3710
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前クリニックビル1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ッ川内科クリニック	南区六ッ川1-873-3	306-8026
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ビル3F	841-0133
後藤内科医院	港南区日野7-4-6	842-3664
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
山崎胃腸科内科クリニック	港南区港南台9-29-2	834-1243
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
新桜クリニック	保土ヶ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ヶ谷区川島町1404 くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ヶ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4 希望が丘センタービル2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
あさひ本宿クリニック	旭区本宿町90-30	360-8681
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
伊部皮膚科クリニック	磯子区磯子3-3-21 江戸徳ビル1F	751-8712
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22 三葉ビル	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
小谷クリニック	金沢区柴町349-1	781-7889
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9 クリニックビル2F	785-3912
とみおか診療所	金沢区富岡東6-1-3	773-7213
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3 斉木ビル2階	773-2212
清水医院	港北区菊名3-21-10	431-8425
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
三菱重工大倉山病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2 第7吉田ビル2・3F	546-8611
荻原医院	港北区太尾町308-25	531-3195

日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16 日吉教養センタービル2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町4-12-8 横浜銀行ビル1F	561-9300
佐々木消化器科内科	港北区綱島東2-12-19 福島クリニックビル3F	545-4588
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107号	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームステイプラザ 十日市場西館101	989-6388
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10 アモンビル1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ヶ尾町1167-1 ラバーブル昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11 サンサーラあざみ野ビル3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16 メディカルモールたまプラザB1F	910-5033
山口医院	都筑区中川1-5-9	912-2188
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ヶ崎南3-1-60 サ・グレイス2F	945-1112
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA1F	869-0311
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
内田クリニック	栄区桂台東20-16	893-2797
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉町3839-1 フォレストいずみ中央	806-5067
緑台クリニック	泉区緑園2-6-11	813-6333
稲葉内科クリニック	瀬谷区中央19-5	303-5616



# 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛感第 340 号(局長決裁)

最近改正 平成 20 年 5 月 12 日健健安第 270 号(局長決裁)

## 第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」(以下「国要綱」という。)を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

## 第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

### 1 全数把握の対象

#### 一類感染症

(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病及び(7)ラッサ熱

#### 二類感染症

(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る)及び(12)鳥インフルエンザ(H5N1)

#### 三類感染症

(13)コレラ、(14)細菌性赤痢、(15)腸管出血性大腸菌感染症、(16)腸チフス及び(17)パラチフス

#### 四類感染症

(18)E 型肝炎、(19)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)、(20)A 型肝炎、(21)エキノコックス症、(22)黄熱、(23)オウム病、(24)オムスク出血熱、(25)回帰熱、(26)キャサヌル森林病、(27)Q 熱、(28)狂犬病、(29)コクシジオイデス症、(30)サル痘、(31)腎症候性出血熱、(32)西部ウマ脳炎、(33)ダニ媒介脳炎、(34)炭疽、(35)つつが虫病、(36)デング熱、(37)東部ウマ脳炎、(38)鳥インフルエンザ(H5N1 を除く)、(39)ニパウイルス感染症、(40)日本紅斑熱、(41)日本脳炎、(42)ハンタウイルス肺症候群、(43)B ウイルス病、(44)鼻疽、(45)ブルセラ症、(46)ベネズエラウマ脳炎、(47)ヘンドラウイルス感染症、(48)発しんチフス、(49)ポツリヌス症、(50)マラリア、(51)野兔病、(52)ライム病、(53)リッサウイルス感染症、(54)リフトバレー熱、(55)類鼻疽、(56)レジオネラ症、(57)レプトスピラ症、(58)ロッキー山紅斑熱

## 五類感染症（全数）

(59)アメーバ赤痢、(60)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）、(61)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）、(62)クリプトスポリジウム症、(63)クロイツフェルト・ヤコブ病、(64)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(65)後天性免疫不全症候群、(66)ジアルジア症、(67)髄膜炎菌性髄膜炎、(68)先天性風しん症候群、(69)梅毒、(70)破傷風、(71)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(72)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(73)風しん、(74)麻しん

## 新型インフルエンザ等感染症

(100)新型インフルエンザ、(101)再興型インフルエンザ

## 2 定点把握の対象

### 五類感染症（定点）

(75)RSウイルス感染症、(76)咽頭結膜熱、(77)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(78)感染性胃腸炎、(79)水痘、(80)手足口病、(81)伝染性紅斑、(82)突発性発しん、(83)百日咳、(84)ヘルパンギーナ、(85)流行性耳下腺炎、(86)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）、(87)急性出血性結膜炎、(88)流行性角結膜炎、(89)性器クラミジア感染症、(90)性器ヘルペスウイルス感染症、(91)尖圭コンジローマ、(92)淋菌感染症、(93)クラミジア肺炎（オウム病を除く）、(94)細菌性髄膜炎、(95)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(96)マイコプラズマ肺炎、(97)無菌性髄膜炎、(98)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(99)薬剤耐性緑膿菌感染症

### 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(102)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）若しくは(103)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）

## 3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

### 二類感染症

(12)鳥インフルエンザ（H5N1）

## 第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）衛生研究所及び各区福祉保健センターとする。

## 第4 実施体制の整備

### 1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」

という。)を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び各区福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

## 2 指定届出機関（定点）

健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

## 3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

## 第5 事業の実施

### 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

#### (1) 調査単位及び実施方法

##### ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

##### イ 福祉保健センター

(ア) 当該届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

また、当該患者（四類感染症については、第2の(20)及び(50)を除く。また、全数把握対象の五類感染症については、第2の(59)、(61)、(63)、(64)、(65)、(67)、(68)、(70)、(71)、(72)、(73)又は(74)とする。）を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生研究所への提供について、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」を添付して依頼する。

(イ) 福祉保健センターは、オ(ア)により衛生研究所から検体の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（医療機関あて検査結果通知用）」により速やかに送付する。

## ウ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、内容の点検等を行ったうえで、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、区内の関係機関に情報提供し連携を図る。

## エ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報（検査情報を含む。）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

## オ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（福祉保健センターあて結果通知用）」により福祉保健センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

## 2 定点把握対象の五類感染症

- (1) 対象とする感染症の状態  
国要綱に定めるとおりとする。

### (2) 定点の選定

#### ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、人口及び医療機関の分布等を勘案してできるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

#### イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

### (3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

### (4) 実施方法

#### ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、ファクシミリにより福祉保健センターへ送付する。

#### イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、国が定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式「病原体定点からの検査依頼書」を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

#### ウ 福祉保健センター

福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報があれば、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。

#### エ 健康福祉局

福祉保健センターは、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、区内の関係機関に情報提供し連携を図る。

#### オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウにより患者情報の送付があり次第、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式「病原体定点からの検査依頼書」及び検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式「病原体定点からの検査依頼書（医療機関あて検査結果通知用）」により病原体定点に通知するとともに、感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

### 3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

#### (1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

#### (2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、人口及び医療機関の分布等を勘案してできるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。

なお、疑似症定点の種類及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

#### (3) 実施方法

##### ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施する。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

## イ 健康福祉局

保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

## ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報があれば、健康福祉局へ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

## 5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

### (1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

### (2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

### (3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。検体を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

## 第6 その他

本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

なお、感染症発生動向調査事業については、本要綱に基づき実施することとし、結核発生動向調査事業については、従来の「横浜市結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき実施することとする。

附 則

( 施行期日 )

- 1 この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

( 施行期日 )

- 1 この要綱は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

( 経過措置 )

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

( 施行期日 )

- 1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

( 経過措置 )

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。



## 別記様式一覧表

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症  
検査票（病原体）（4枚複写式）

（医療機関控）

（福祉保健センター控）

（福祉保健センターあて検査結果通知用）

（医療機関あて検査結果通知用）

病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

（医療機関控）

（衛生研究所控）

（医療機関あて検査結果通知用）



# 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 18 年 3 月 10 日 衛感第 10396 号（局長決裁）

## （設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## （所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

## （組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

## （委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

## （委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

## （招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

## （議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

平成 20 年 1 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 20 年 1 月 31 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

### 今月のトピックス

麻しんは 2008 年 1 月から全数把握疾患となりました。市内では 100 例以上の報告があり、小学校入学前の予防接種(MR ワクチン第 2 期接種)の徹底が望まれます。

インフルエンザは、一旦減少するも、再度増加中です。

平成 19 年 12 月 24 日から平成 20 年 1 月 27 日まで(平成 19 年第 52 週から平成 20 年第 4 週まで。ただし、性感染症については平成 19 年 12 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成 19 及び 20 年 週 - 月日対照表

第 52 週	12 月 24 ~ 30 日
第 1 週	12 月 31 ~ 1 月 6 日
第 2 週	1 月 7 ~ 13 日
第 3 週	1 月 14 ~ 20 日
第 4 週	1 月 21 ~ 27 日

### 全数把握の対象

1 **麻しん**: 1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、1 月 31 日までの報告数は 125 例と、全国の中でも非常に多くなっています。年齢別では 10 代が過半数を占めています。また、半数以上が予防接種未接種でした。2012 年麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市の詳細については、「麻しん(はしか)の流行について」

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf) をご覧ください。

#### (麻しんの排除に向けて)

2008 年 1 月から、風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

2006 年度より、麻しん単独ワクチンの 1 回接種から、麻しん風しん混合ワクチンによる 2 回接種に変更。

2008 年 4 月より 5 年間、中 1 及び高 3 相当の年齢への定期接種を実施。

2 **レジオネラ症**: 横浜市では、昨年は 28 例と、前年の 4 倍の報告がありました。今年も、1 月は 3 例の報告があります。全国では、昨年は 660 例、今年も第 4 週までの累計が 50 例となっています。

循環式浴槽やジャグジーなどをよく利用している異型肺炎患者の場合には、レジオネラ症の検索が重要と考えられます。

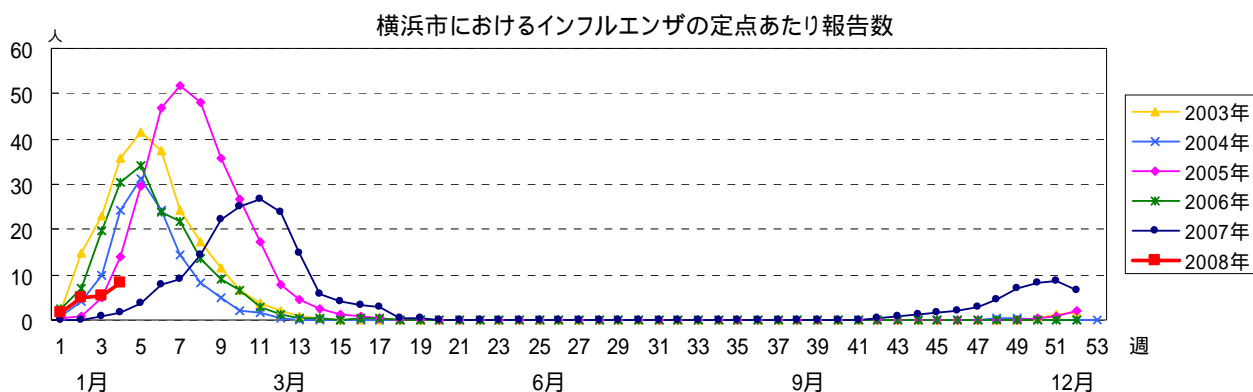
なお、衛生研究所と区福祉保健センターでは、原因究明と感染拡大の防止を目的に喀痰検査や施設調査、遺伝子検査を行っています。

その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/report.html#zensu](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu)

### 定点把握の対象

1 **インフルエンザ**: 年未年始にかけて、横浜市でも全国と同様に減少しましたが、第 2 週以降は再び増加し、第 4 週は定点あたり 8.21 となっています。区別では、中区以外の 17 区で流行の目安となる「1.0」を超えており、都筑(17.2)、瀬谷(15.0)、栄(14.2)、磯子(12.7)、泉(11.0)、金沢(10.4)、戸塚(10.3)、港南(10.3)の 8 区で注意報レベルの「10」を超えています。川崎市は 8.74 で、横浜市とほぼ同じですが、神奈川県(横浜、川崎を除く)は 14.88 と高く、注意報レベルの「10」を超えています。



全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかったAソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加しつつあります。

最新の情報については、[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf) をご覧ください。

- 2 **感染性胃腸炎**:11 月後半から増加傾向が続いていましたが、第 51 週をピークに減少し、第4週は定点当たり 8.14 でした。

川崎市は 9.97 とやや横浜市より高めで、神奈川県(横浜、川崎を除く)は 8.20 でした。

病院、施設等におけるノロウイルス感染の集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

平成 19 及び 20 年 週 - 月日対照表

第 52 週	12 月 24 ~ 30 日
第 1 週	12 月 31 ~ 1 月 6 日
第 2 週	1 月 7 ~ 13 日
第 3 週	1 月 14 ~ 20 日
第 4 週	1 月 21 ~ 27 日

- 3 **RS ウイルス感染症**:例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。今シーズンは、インフルエンザの流行がかなり早く始まりましたが、RS ウイルス感染症は、例年通り 12 月に多く報告されていました。1 月に入ってから、第 1 週が 1 人、第 2 週が 14 人、第 3 週が 13 人、第 4 週が 6 人と第 2 週以降は減少傾向です。

病原体定点から採取された検体からは、衛生研究所で、12 月に 10 例、1 月に 5 例が、PCR 法で確認されました。うち、12 月の 1 例と 1 月 2 例は A ソ連型(AH1)インフルエンザとの重複感染でした。

- 4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 2 週以降増加が続き、第 4 週は定点当たり 1.59 と、昨年に次いで高い値になっています。瀬谷(5.3)、都筑(3.8)、栄(3.7)で発生が目立ちます。昨年、一昨年とも、2 月～3 月にかけて高い値が続きましたので、今後の動向に注意が必要です。

川崎市は 2.24 と、横浜より高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 1.76 でした。

- 5 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

12 月は 11 月に比べて性器クラミジア感染症が増え、性器ヘルペスウイルス感染症が減りました。また、女性の淋菌感染症が 3 例ありました。

2007 年は 2006 年と比較して、患者数についてあまり大きな変化はありませんでした。季節性もあまり見られず、また、10 代が増えているといった傾向も特に見られません。ここ数年の男性の淋菌感染症の減少傾向は続いています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

平成 20 年 2 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 20 年 2 月 28 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

### 今月のトピックス

麻疹は 2008 年 1 月から全数把握疾患となりました。市内ではすでに 300 例以上の報告があり、小学校入学前の予防接種(MR ワクチン第 2 期接種)の徹底をお願いします。

インフルエンザは減少傾向。タミフル耐性株による地域内での小流行が見られるも終息。

平成 20 年 1 月 21 日から平成 20 年 2 月 24 日まで(平成 20 年第 4 週から第 8 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 1 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成 19 及び 20 年 週 - 月日対照表

第 4 週	1 月 21 ~ 27 日
第 5 週	1 月 28 ~ 2 月 3 日
第 6 週	2 月 4 ~ 10 日
第 7 週	2 月 11 ~ 17 日
第 8 週	2 月 18 ~ 24 日

### 全数把握の対象

1 **麻疹**: 1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第 8 週(2/18~24)までの報告数は 372 例で、全国の報告数 2706 の約 14%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では 10 代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。2012 年麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。小学校入学前の 期については、3 月末の接種期限が迫っています。

横浜市の詳細については、「麻疹(はしか)の流行について(3)」

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf) をご覧ください。

#### (麻疹の排除に向けて)

2008 年 1 月から、風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

2006 年度より、麻疹単独ワクチンの 1 回接種から、麻疹風しん混合ワクチンによる 2 回接種に変更。

2008 年 4 月より 5 年間、中 1 及び高 3 相当の年齢への定期接種を実施。

2 **レジオネラ症**: 横浜市では、昨年は 28 例と、前年の 4 倍の報告がありました。今年は、1 月に 3 例、2 月に 1 例の報告があります。全国では、昨年は 665 例、今年は第 8 週までの累計が 119 例となっています。

循環式浴槽やジャグジーを持つ温泉施設などをよく利用している異型肺炎患者の場合には、レジオネラ症の検索が重要と考えられます。

なお、衛生研究所と区福祉保健センターでは、原因究明と感染拡大の防止を目的に喀痰検査や施設調査、遺伝子検査を行っています。

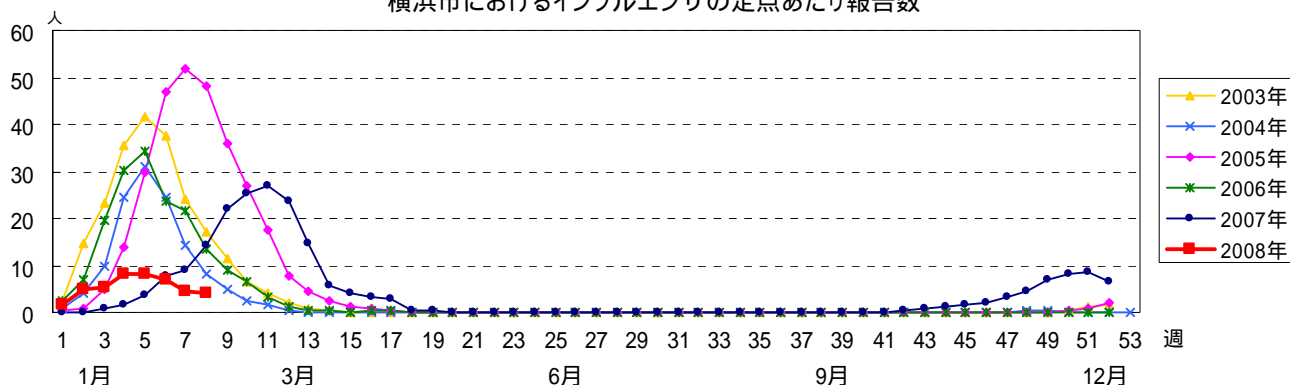
その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/report.html#zensu](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu)

### 定点把握の対象

1 **インフルエンザ**: 年末年始にかけて減少し、第 2 週以降は再び増加しましたが、第 5 週をピークに第 8 週は定点あたり 3.92 と減少傾向になってきました。区別では、注意報レベルの「10」を超えている区はなく、都筑(9.0)、磯子(9.0)、港北(8.2)で多くなっています。川崎市は 5.58、神奈川県(横浜、川崎を除く)は 5.46 と、どちらも横浜市より高い値でした。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかったAソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加しつつあります。また、2008年に入ってから、A香港型(AH3)、B型もわずかですが、検出されています。

最新の情報については、[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf) をご覧ください。

第5週の検体から、タミフル耐性インフルエンザウイルス(Aソ連型)が分離されました。同一区内であったため、小地域における一時的な流行があったと考えられましたが、その後は認められず、流行は終息しました。詳細は[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf) をご覧ください。

- 2 **感染性胃腸炎**: 年末にかけて多く報告されましたが、1月以降は横ばいが続いています。第8週は、定点あたり10.88と、増加しました。川崎市は17.13、神奈川県(横浜、川崎を除く)は12.36とどちらも横浜より高くなっていますし、今後の動向にはまだ少し注意が必要です。病院、施設、学校等におけるノロウイルス感染の集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

平成19及び20年 週 - 月日対照表

第4週	1月21～27日
第5週	1月28～2月3日
第6週	2月4～10日
第7週	2月11～17日
第8週	2月18～24日

- 3 **RSウイルス感染症**: 例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。今シーズンは、インフルエンザの流行がかなり早く始まりましたが、RSウイルス感染症は、例年通り12月に多く報告されました。1月に入ってから報告が続き、第5週に11人と増えていますが、第3週以降は減少傾向で、第8週の報告は1人でした。病原体定点から採取された検体からは、衛生研究所で、12月に10例、1月に5例、2月に8例が、PCR法で確認されました。うち、12月の1例と1月の2例、2月の5例はAソ連型(AH1)インフルエンザとの重複感染、2月の1例はA香港型(AH3)インフルエンザとの重複感染でした。

- 4 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第2週以降増加傾向が続き、第8週は定点当たり1.97と、昨年、一昨年に次いで高い値になっています。瀬谷(9.0)、磯子(5.5)、青葉(3.7)、都筑(3.3)で発生が目立ちます。昨年、一昨年とも、2月～3月にかけて高い値が続きました。川崎市は2.81、神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.92と、どちらも横浜より高くなっていますので、今後の動向に注意が必要です。

- 5 **流行性角結膜炎**: 港北、泉で増加しており、成人例が目立ちました。感染力が強く、患者の眼脂やウイルスに汚染された手指、タオル、器具などに接触して感染するため、注意が必要です。

- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の11定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

性器ヘルペスウイルス感染症の1月の報告では、男性の2割、女性の3割が、60歳以上となっており、再発例が報告されている可能性もあります。また、女性の淋菌感染症が3例ありました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



平成 20 年 3 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 20 年 3 月 27 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

### 今月のトピックス

麻疹は 2008 年 1 月から全数把握疾患となりました。市内ではすでに 700 例以上の報告があり、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中。

インフルエンザは終息傾向。

平成 20 年 2 月 18 日から平成 20 年 3 月 23 日まで(平成 20 年第 8 週から第 12 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 2 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成 20 年 週 - 月日対照表

第 8 週	2 月 18 ~ 24 日
第 9 週	2 月 25 ~ 3 月 2 日
第 10 週	3 月 3 ~ 9 日
第 11 週	3 月 10 ~ 16 日
第 12 週	3 月 17 ~ 23 日

### 全数把握の対象

1 麻疹: 1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第 12 週(3/17~23)までの報告数は 703 例で、全国の報告数 4662 の 15%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では 10 代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。2012 年麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1 歳 ~ 高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者には、春休みのうちに接種を受けてもらい、新学期に備えることが重要です。

横浜市の詳細については、「麻疹(はしか)の流行について(4)」

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf) をご覧ください。

(日本は、2008 年 ~ 2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底。

5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢への定期接種を実施。

2 レジオネラ症: 横浜市では、1 月に 3 例、2 月に 3 例、3 月に 2 例と、すでに 8 例の報告があり、このうち 4 例が、保土ヶ谷区内の温泉施設の利用者でした。昨年は 28 例とかなり多い報告がありましたが、1~3 月は 1 例でした。全国では、第 12 週までの累計が 172 例となっています。

循環式浴槽やジャグジーを持つ温泉施設などをよく利用している異型肺炎患者の場合には、レジオネラ症の検索が重要と考えられます。

なお、衛生研究所と区福祉保健センターでは、原因究明と感染拡大の防止を目的に喀痰検査や施設調査、遺伝子検査を行っています。

その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/report.html#zensu](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu)

## 定点把握の対象

平成 20 年 週 - 月日対照表

- 1 **インフルエンザ**:今シーズンは、流行開始が例年に比べ非常に早かったものの、ピークは小さく、第 6 週以後減少が続き、第 12 週(3/17~3/23)の患者定点医療機関からの患者報告数は 250 人、定点あたり報告数は 2.23 で、終息傾向と考えられます。川崎市は 2.19、神奈川県(横浜、川崎を除く)は 1.80 と、どちらも横浜市より低い値でした。

第 8 週	2 月 18 ~ 24 日
第 9 週	2 月 25 ~ 3 月 2 日
第 10 週	3 月 3 ~ 9 日
第 11 週	3 月 10 ~ 16 日
第 12 週	3 月 17 ~ 23 日

全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかった A ソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加してきました。また、2008 年に入ってから、A 香港型(AH3)が 5 例、B 型が 4 例分離されています。

最新の情報については、[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf) をご覧ください。

第 10 週の検体のうち、同一家族の 3 例からタミフル耐性ウイルス(A ソ連型)が分離されました。いずれも成人で、発症経過から家族内感染と考えられます。タミフル耐性株の流行を防ぐためには、症状が改善しても、タミフル内服中(一般的には 5 日間)は、会社や学校を休む必要があります。詳細は

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf) をご覧ください。

- 2 **感染性胃腸炎**:年末にかけて多く報告され、1 月以降は横ばいが続いていましたが、第 8 週からは増加し、第 11 週は定点あたり 13.56 と過去 5 年間で比べて最も高い値になりました。第 12 週は 10.65 と減少しましたが、川崎市は 16.00、神奈川県(横浜、川崎を除く)は 12.61 と、どちらも横浜市より高くなっていますし、今後の動向には注意が必要です。ノロウイルス感染症だけでなく、ロタウイルス感染症も見られています。ロタウイルス感染症は、乳幼児に多く、発熱を伴い、けいれんなど重症になる場合があります。

病院、施設、学校等における集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

- 3 **RS ウイルス感染症**:例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。今シーズンは、インフルエンザの流行がかなり早く始まりましたが、RS ウイルス感染症は、12 月に多く報告されました。1 月に入ってから報告が続きましたが、第 7 週以降 1 人か 2 人の報告となり、第 12 週は 0 人でした。

病原体定点から採取された検体からは、衛生研究所で、12 月に 10 例、1 月に 5 例、2 月に 8 例が、PCR 法で確認されましたが、3 月は検出されませんでした。

- 4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 2 週以降増加傾向が続き、第 11 週は定点当たり 2.63 と、この時期としては昨年の第 10 週の 2.68 に次いで高い値になりました。第 12 週は 2.15 と少し下がりましたが、依然として過去に比べ高い値になっています。瀬谷(9.0)、磯子(6.0)、都筑(4.3)で、警報開始レベルの 4 を超えています。川崎市は 2.19、神奈川県(横浜、川崎を除く)は 2.01 と、どちらも横浜と同様多くなっているため、今後の動向に注意が必要です。

- 5 **マイコプラズマ肺炎**:3 か所の基幹定点医療機関からの報告に基づいているため、総数で比較しました。平成 18 年は年間 92 人とかなり多い報告がありましたが、昨年は 37 人でした。平成 20 年に入り、報告が目立ち、特に第 9、10、11 週は 8 人ずつの報告が続き、第 12 週までの累計は 36 人と、昨年の同時期の 3 倍でした。全国でも、昨年に続き、今年もかなり多く報告されており、今後の動向に注意が必要です。

- 6 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

2 月は、1 月に比べて、男性の性器クラミジア感染症が減少した以外は、増加しています。また、15~19 歳の若年については、男性は報告がありませんでしたが、女性は、性器クラミジア感染症で 4 人、性器ヘルペス感染症で 1 人、尖圭コンジローマで 1 人と、目立ちました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

平成 20 年 4 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 20 年 4 月 24 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

### 今月のトピックス

麻疹は 2008 年 1 月から全数把握疾患となりました。市内ではすでに 900 例以上の報告があり、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中。

インフルエンザは、ほぼ終息。

平成 20 年 3 月 17 日から平成 20 年 4 月 20 日まで(平成 20 年第 12 週から第 16 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 3 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成 20 年 週 - 月日対照表

第 12 週	3 月 17 ~ 23 日
第 13 週	3 月 24 ~ 30 日
第 14 週	3 月 31 ~ 4 月 6 日
第 15 週	4 月 7 ~ 13 日
第 16 週	4 月 14 ~ 20 日

### 全数把握の対象

1 麻疹: 1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.gov/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第 16 週(4/14 ~ 20)までの報告数は 995 例で、全国の報告数 6386 の 15.6%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では 10 代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1 歳 ~ 高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「麻疹(はしか)の流行について(5)」

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf) をご覧ください。

(日本は、2008 年 ~ 2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します)

麻疹とともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風疹混合ワクチンによる 2 回接種の徹底。

5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施。

### 定点把握の対象

第 14 週以降患者定点医療機関数が増えました(インフルエンザ定点 139 145、小児科定点 84 88、眼科定点 15 18)。

1 インフルエンザ: 今シーズンは、流行開始が例年に比べ非常に早かったものの、ピークは小さく、第 6 週以後減少が続く。第 16 週(4/14 ~ 4/20)の患者定点医療機関からの患者報告数は 61 人、定点あたり報告数は 0.50 で、ほぼ終息したと考えられます。

全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかった A ソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加してきました。また、2008 年に入ってから、A 香港型(AH3)が 11 例、B 型が 5 例分離されています。

最新の情報については、[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf) をご覧ください。

2 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第 2 週以降増加傾向が続き、第 11 週は定点当たり 2.63 と、この時期としては昨年の第 10 週の 2.68 に次いで高い値になりました。第 12 週以降は減少し、第 16 週には定点あたり 1.89 と例年よりやや高めの水準になりました。

平成 20 年 週 - 月日対照表

第 12 週	3 月 17 ~ 23 日
第 13 週	3 月 24 ~ 30 日
第 14 週	3 月 31 ~ 4 月 6 日
第 15 週	4 月 7 ~ 13 日
第 16 週	4 月 14 ~ 20 日

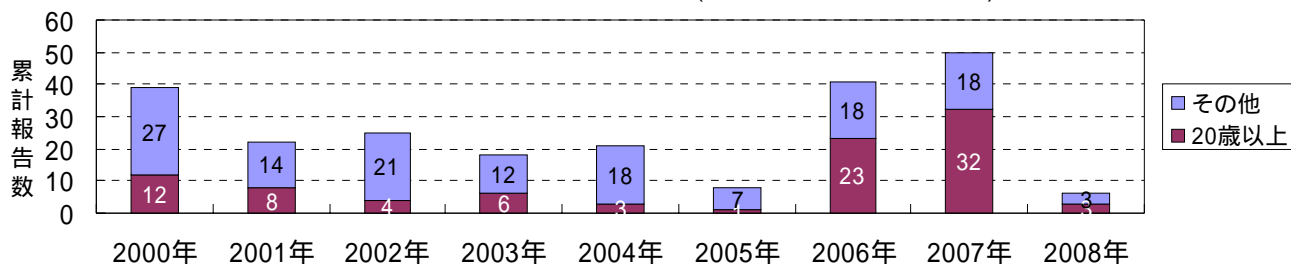
3 **感染性胃腸炎**:年末にかけて多く報告され、1 月以降は横ばいが続いていましたが、第 8 週からは増加し、第 11 週は定点あたり 13.56 と過去 5 年間で最も高い値になりました。横浜市では、第 12 週以降は減少し、第 16 週には定点あたり 6.21 と例年並みの水準になりました。全国的には例年より高めの水準で、今後の動向に注意する必要があります。ノロウイルス感染症だけでなく、ロタウイルス感染症も見られています。ロタウイルス感染症は、乳幼児に多く、発熱を伴い、けいれんなど重症になる場合があります。

病院、施設、学校等における集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

4 **百日咳**:第 12 週 ~ 16 週の報告は 4 人で、年齢は 20 歳以上が 3 人、1 歳未満が 1 人でした。昨年は、50 人の報告があり、全国的にやや大きな流行のあった 2000 年の 39 人、2006 年の 41 人を上回りました。全国的には例年より高めの水準が続いています。

成人では、長期の咳または発作性の咳だけのことが多く、他の疾患との鑑別が困難なために診断が遅れ、感染源となって周囲へ感染を拡大してしまうこともあります。百日咳は、母体からの移行抗体が有効に働かないために、乳児早期から罹患する可能性があり、特に、生後 6 か月以下では重症化する危険性があります。早期の予防接種が必要です。(三種混合ワクチンとして、生後 3 か月から接種できます。)

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第16週)



5 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

3 月は、2 月に比べて、女性の性器クラミジア感染症が半減しましたが、尖圭コンジローマは男女とも増加しています。また、性器クラミジア感染症の 15 ~ 19 歳の若年については、男性は報告がありませんでしたが、女性は 2 例見られました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



今月のトピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、過去 5 年間で最も高い水準で、注意が必要です。

麻疹報告数は第 20 週から減少傾向が見られています。緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中です。

腸管出血性大腸菌感染症は、5 月としては過去 5 年間で最も多く、注意が必要です。

平成 20 年 4 月 21 日から平成 20 年 5 月 25 日まで(平成 20 年第 17 週から第 21 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 4 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 年 週 - 月日対照表

第 17 週	4 月 21 ~ 27 日
第 18 週	4 月 28 ~ 5 月 4 日
第 19 週	5 月 5 ~ 11 日
第 20 週	5 月 12 ~ 18 日
第 21 週	5 月 19 ~ 25 日

全数把握の対象

1 麻疹: 1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第 21 週(5/19 ~ 25)までの報告数は 1316 例で、全国の報告数 8435 の 15.6%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では 10 代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。

5 月 1 日 ~ 25 日までの報告数は、2 月 304 例、3 月 371 例、4 月 317 例に比べて少なくなっていますが、昨年は 5 月から 6 月にかけて流行しており、引き続き注意が必要です。

2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1 歳 ~ 高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008 年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008 年 ~ 2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

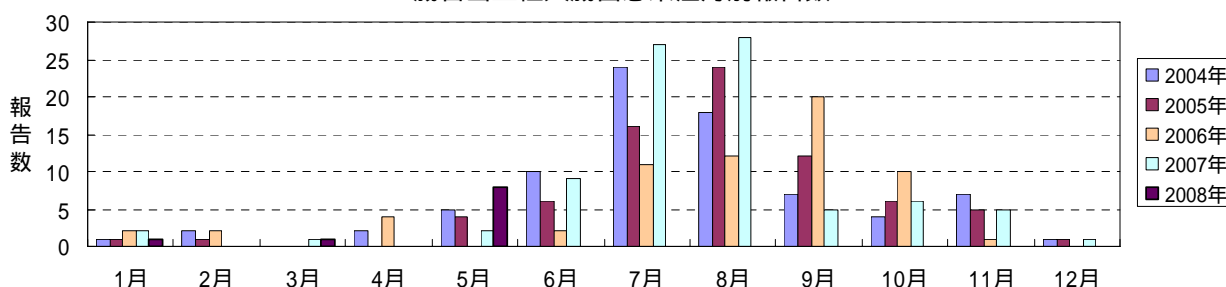
1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底。

5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施。

2 腸管出血性大腸菌感染症: 5 月の報告数は、29 日現在で 8 例と、過去 5 年間で最も多くなっています。年齢の内訳は、10 歳未満が 1 例、10 代が 1 例、20 代が 1 例、30 代が 2 例、40 代が 1 例、50 代が 1 例、60 代以上が 1 例でした。毎年、夏に報告が多くなりますので、注意が必要です。例年レバ刺し生食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



## 定点把握の対象

- 1 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第2週以降増加傾向が続き、第12週から第16週にかけてやや減少したものの、第20週は定点あたり3.15と、この時期としては過去6年間で最も高い値となりました。第21週も3.11と高い値が続いています。行政区別では、港北区(9.29)、緑区(8.00)、瀬谷区(6.50)に多く見られました。川崎市は3.61、神奈川県(横浜、川崎を除く)は3.36と、どちらも横浜市より高い値です。全国は3.02でした。今後も注意が必要です。

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0502.pdf> も合わせてご覧ください。

平成20年 週 - 月日対照表

第17週	4月21～27日
第18週	4月28～5月4日
第19週	5月5～11日
第20週	5月12～18日
第21週	5月19～25日

- 2 **感染性胃腸炎**:年末にかけて多く報告され、1月以降は横ばいが続いていましたが、第8週からは増加し、第11週は定点あたり13.56と過去5年間と比べて最も高い値になりました。横浜市では、第12週以降は減少し、第21週には定点あたり5.55と例年よりやや高めの水準になりました。行政区別では、中区(15.00)、旭区(10.50)に多く見られました。川崎市は8.36とかなり高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は6.90、全国は7.02と、いずれも横浜市より高い値でした。今後の動向に注意する必要があります。

学校等における集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

- 3 **水痘**:第19週、第20週と増加しましたが、第21週は少し減少して定点あたり1.39でした。川崎市は2.00と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.29でした。

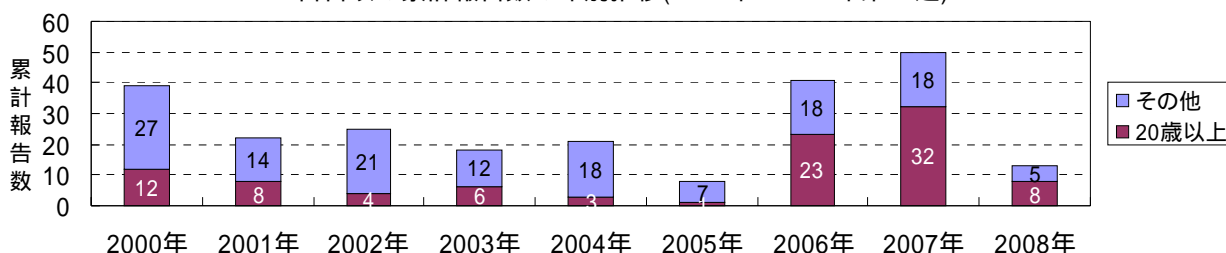
- 4 **手足口病**:第21週は定点あたり0.17で、まだ増加の兆しは見られません。しかし、5月に中国で手足口病の流行が見られており、例年夏にかけて増加してくるから、今後注意が必要です。

中国での手足口病の流行について(英文:WHO Disease Outbreak News <http://www.who.int/csr/don/en>)

- 5 **百日咳**:第17週～21週の報告は7人で、そのうち5人が20歳以上でした。全国的には例年より高めの水準が続いており、成人の報告例が多くなっています。

成人では、長期の咳または発作性の咳だけのことが多く、他の疾患との鑑別が困難なために診断が遅れ、感染源となって周囲へ感染を拡大してしまうこともあります。百日咳は、母体からの移行抗体が有効に働かないために、乳児早期から罹患する可能性があり、特に、生後6か月以下では重症化する危険性があります。早期の予防接種が必要です。(三種混合ワクチンとして、生後3か月から接種できます。)

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第21週)



- 6 **ヘルパンギーナ**:第21週は定点あたり0.17と、少し増加の兆しが見られます。全国では0.37と横浜市より高い値でした。例年、6月に入り急に増加してくるため、これからの季節は注意が必要です。

- 7 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の11定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

4月は、3月に比べて、横ばいもしくは減少傾向です。15～19歳の若年については、男性は報告がありませんでしたが、女性は性器クラミジア感染症と性器ヘルペスウイルス感染症で1例ずつ見られました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、過去 6 年間で最も高い水準で、注意が必要  
 麻疹報告数は 5 月に引き続き減少傾向  
 緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中  
 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症が増加傾向  
 百日咳が全国的に増加していますので、注意が必要

平成 20 年 5 月 19 日から平成 20 年 6 月 22 日まで(平成 20 年第 21 週から第 25 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 5 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

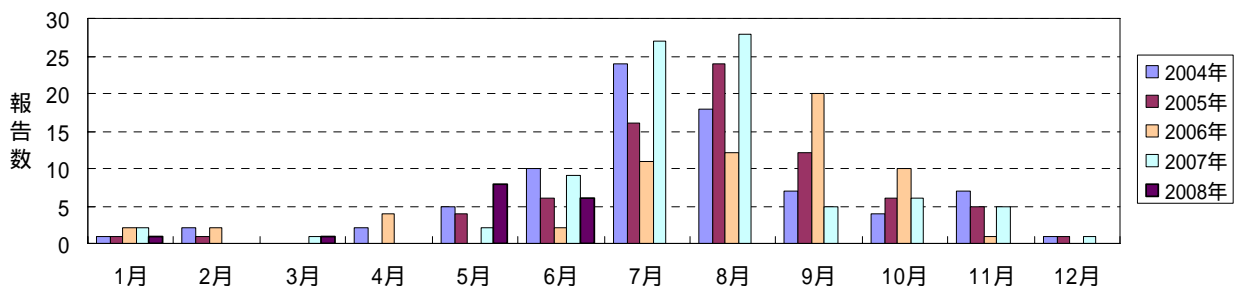
平成 20 年 週 - 月日対照表

第 21 週	5 月 19 ~ 25 日
第 22 週	5 月 26 ~ 6 月 1 日
第 23 週	6 月 2 ~ 8 日
第 24 週	6 月 9 ~ 15 日
第 25 週	6 月 16 ~ 22 日

全数把握の対象

- 1 コレラ:今年 1 例目の報告がありました。経口感染が疑われ、推定感染地域はフィリピンでした。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:6 月の報告数は、26 日現在で 6 例です。修学旅行生の集団感染と見られる事例がありました。年齢の内訳は、10 歳未満が 1 例、10 代が 2 例、40 代が 1 例、50 代が 1 例、60 代以上が 1 例でした。毎年、夏に報告が多くなりますので、今後に注意が必要です。例年、生肉(生レバー等)や生焼けの肉の喫食による感染が見られます。  
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> もあわせてご覧ください。

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



- 3 麻疹:1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 横浜市では、第 25 週(6/15 ~ 22)までの報告数は 1387 例で、全国の報告数 9666 の 14.3%を占めています。年齢別では過半数が 10 代です。また、約半数が予防接種未接種でした。  
 6 月 1 日 ~ 22 日までの報告数は、43 例と、5 月に引き続き減少していますが、2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。  
 横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>  
 1 歳 ~ 高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008 年)」  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

（日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します）

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底。

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施。

## 定点把握の対象

- 1 **咽頭結膜熱**:夏季に流行する疾患で、例年6月頃から増加が見られます。横浜市では、第25週は定点あたり0.78と、増加傾向が見られます。行政区別では、港北区(3.14)、磯子区(2.25)、港南区(1.67)が高くなっています。川崎市は1.36と、横浜市より高い値です。全国では、0.85でした。今後の動向には注意が必要です。啓発用チラシ「咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう!」

平成20年 週 - 月日対照表

第21週	5月19～25日
第22週	5月26～6月1日
第23週	6月2～8日
第24週	6月9～15日
第25週	6月16～22日

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/intouketumaku2008.pdf> も合わせてご覧ください。

- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第2週以降増加傾向が続き、第23週は定点あたり3.67と、過去6年間で最も高い値となりました。第25週も3.28と高い値が続いています。行政区別では、港北区(13.43)、瀬谷区(8.50)、緑区(8.00)に多く見られました。川崎市は3.88と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は3.11でした。全国は2.62でした。今後も注意が必要です。

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0626.pdf> も合わせてご覧ください。

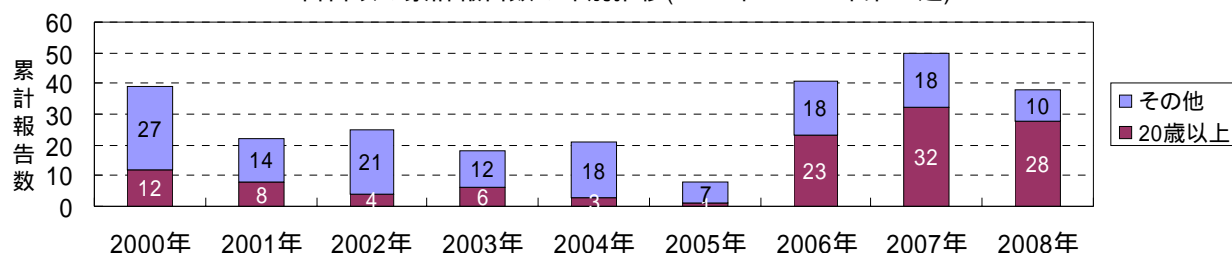
- 3 **手足口病**:第25週は定点あたり0.66と、やや増加の兆しが見られます。例年夏にかけて増加してくるから、今後の動向に注意が必要です。川崎市は1.21、全国は1.67と、横浜市より高い値です。

- 4 **百日咳**:第21週～25週の報告は21人で、そのうち15人が20歳以上でした。全国的には例年より高い水準が続いており、成人の報告例が多くなっています。成人の診断は困難な場合があり注意が必要です。

百日咳の診断等については「国立感染症研究所感染症情報センターIDWR 感染症の話 百日咳」

[http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03\\_36.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_36.html) もご参考にしてください。

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第25週)



- 5 **ヘルパンギーナ**:第25週は定点あたり1.30と、増加の兆しが見られます。川崎市は2.06、全国は1.57と、横浜市より高い値でした。例年、6月末～7月にピークを迎えるため、これからの季節は注意が必要です。

- 6 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

5月は、4月に比べて、横ばい傾向です。15～19歳の若年層については、男性は性器ヘルペスウイルス感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、尖圭コンジローマで1例見られました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



今月のトピックス

麻疹報告数は引き続き減少  
 緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中  
 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症がピークを迎えている  
 腸管出血性大腸菌感染症はやや増加傾向

平成 20 年 6 月 23 日から平成 20 年 7 月 27 日まで(平成 20 年第 26 週から第 30 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 6 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 年 週 - 月日対照表

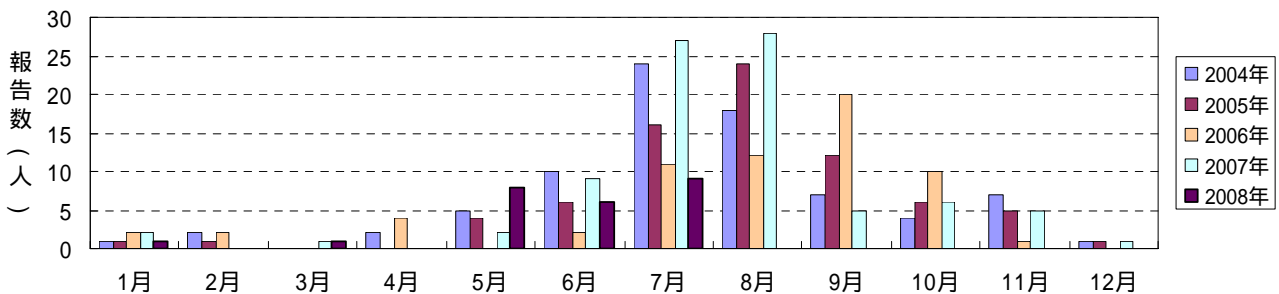
第 26 週	6 月 23 ~ 29 日
第 27 週	6 月 30 ~ 7 月 6 日
第 28 週	7 月 7 ~ 13 日
第 29 週	7 月 14 ~ 20 日
第 30 週	7 月 21 ~ 27 日

全数把握の対象

1 腸管出血性大腸菌感染症:7月の報告数は、30日現在で9例です。年齢の内訳は、10歳未満が3例、10代が2例、20代が1例、40代が1例、50代が2例でした。例年に比べれば少ないですが、毎年、夏に報告が多いので、注意が必要です。生肉(生レバー等)や生焼けの肉の喫食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>も合わせてご覧ください。

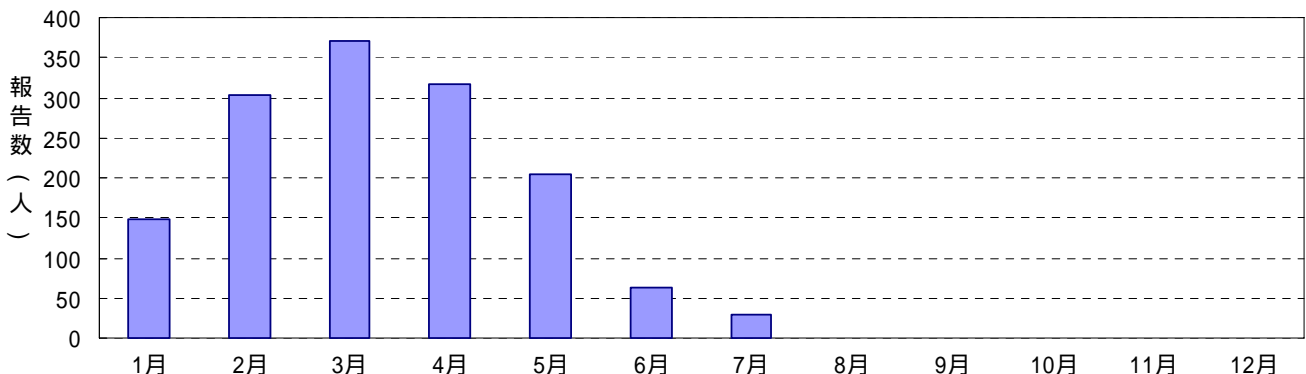
腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



2 麻疹:1月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第 30 週(7/21~27)までの累計報告数は 1436 例で、全国の報告数 10465 の 13.7%です。年齢別では、約半数が 10 代で、予防接種前の 0 歳にも多く発症しています。また、全体の約半数が予防接種未接種でした。7 月 1 日 ~ 27 日までの報告数は 30 例と、6 月に引き続き減少しています。

麻疹月別報告数



2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

## 定点把握の対象

平成20年 週 - 月日対照表

	平成20年 週 - 月日対照表
1 咽頭結膜熱: 夏季に流行する疾患で、例年6月頃から増加が見られます。横浜市では、第21週から増加傾向となり、第30週は定点あたり0.97とやや高い値です。行政区別では、港北区(5.86)が高くなっています。川崎市は1.73と、横浜市より高い値です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.47、全国は0.85でした。	第26週 6月23～29日
	第27週 6月30～7月6日
	第28週 7月7～13日
	第29週 7月14～20日
	第30週 7月21～27日

啓発用チラシ「咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう!」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/intouketumaku2008.pdf> も合わせてご覧ください。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第2週以降増加傾向が続き、第23週に定点あたり3.67とピークを迎えた後は、減少傾向が続いていますが、過去6年間で最も高い値で推移しています。第30週も1.44と、この時期としては過去6年間で最も高い値です。行政区別では、港北区(7.57)、緑区(4.67)に多く見られました。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.17、川崎市は1.58です。全国は1.12でした。

3 手足口病: 横浜市では、第23週から増加傾向となり、第30週は定点あたり4.05と、今シーズンで最も高い値になりました。行政区別では、泉区(13.25)、港南区(8.25)、緑区(7.67)、青葉区(5.33)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は9.10と、かなり高い値です。川崎市は2.55、全国は3.24でした。今後の動向には引き続き注意が必要です。

4 ヘルパンギーナ: 横浜市では、第24週から増加傾向となり、第29週は定点あたり5.78とピークを迎えました。第30週は定点あたり5.20とやや減少しています。行政区別では、緑区(19.67)、泉区(14.25)、瀬谷区(12.00)、磯子区(7.75)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は4.99、川崎市は6.82、全国は3.59でした。今後の動向には引き続き注意が必要です。

5 性感染症: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

6月は、5月に比べて横ばい傾向です。15～19歳の若年層については、男性はありませんでしたが、女性は性器クラミジア感染症で2例、尖圭コンジローマで1例見られました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

麻疹報告数は引き続き減少

緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中

咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症は減少傾向

平成 20 年 7 月 21 日から平成 20 年 8 月 24 日まで(平成 20 年第 30 週から第 34 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 7 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

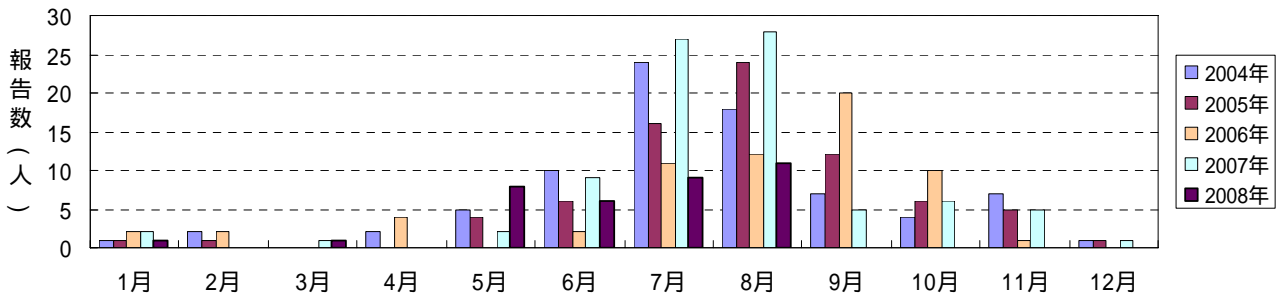
平成 20 年 週 - 月日対照表

第 30 週	7 月 21 ~ 27 日
第 31 週	7 月 28 ~ 8 月 3 日
第 32 週	8 月 4 ~ 10 日
第 33 週	8 月 11 ~ 17 日
第 34 週	8 月 18 ~ 24 日

全数把握の対象

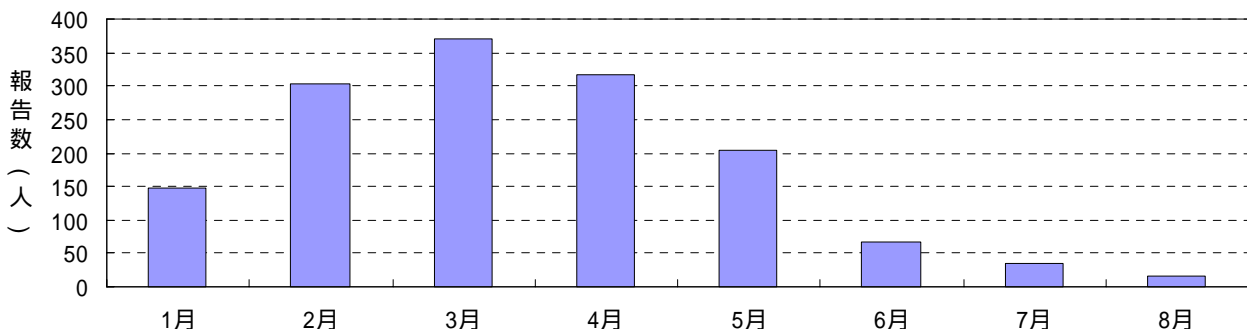
- 細菌性赤痢:**8月の報告数は、28日現在で2例です。うち1例は、国内発生事例でした。
- 腸管出血性大腸菌感染症:**8月の報告数は、28日現在で11例です。年齢の内訳は、10歳未満が2例、10代が1例、20代が4例、30代が1例、50代が2例、70代が1例でした。例年に比べれば少ないですが、9月にも報告が多いので、注意が必要です。生肉(生レバー等)や生焼けの肉の喫食による感染が見られます。  
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> も合わせてご覧ください。

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



- 麻疹:**1月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 横浜市では、第 34 週(8/18 ~ 24)までの累計報告数は 1460 例で、全国の報告数 10677 例の 13.7%です。最近 5 週間(第 30 週 ~ 第 34 週)の報告数は 23 例で、全国の報告数 254 例の 9.1%となっています。年齢別では、約半数が 10 代で、予防接種前の 0 歳にも多く発症しています。また、全体の約半数が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数



2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

## 定点把握の対象

平成20年 週 - 月日対照表

- 1 **咽頭結膜熱**:横浜市では、第21週から増加傾向となり、第27週に定点あたり1.08と今シーズンで最も高い値となった後は減少傾向です。第34週は定点あたり0.36でした。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.32、川崎市は0.69です。全国は0.63でした。啓発用チラシ「咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう!」

第30週	7月21～27日
第31週	7月28～8月3日
第32週	8月4～10日
第33週	8月11～17日
第34週	8月18～24日

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/intouketumaku2008.pdf> も合わせてご覧ください。

- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第2週以降増加傾向が続き、第23週に定点あたり3.67とピークを迎えた後は、減少傾向が続いています。今シーズンは過去6年間で最も高い値で推移していましたが、第34週は定点あたり0.21と例年並みになりました。しかし、例年8月が一番少なく、秋から冬にかけて少し増えていくので、9月末に向けては、また動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.54、川崎市は0.91、全国は0.70と、いずれも横浜市より高い値となっています。
- 3 **手足口病**:横浜市では、第23週から増加傾向となり、第30週に定点あたり4.01とピークを迎え、その後は減少し、第34週は定点あたり1.62でした。行政区別では、泉区(9.00)が高く、緑区(2.67)、栄区(2.67)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.85、川崎市は1.06です。全国は1.41でした。病原体定点からエンテロウイルス71の検出はありませんでした。
- 4 **ヘルパンギーナ**:横浜市では、第24週から増加傾向となり、第29週は定点あたり5.78とピークを迎え、その後は減少傾向です。第34週は定点あたり1.84でした。行政区別では、泉区(4.33)、中区(3.75)、金沢区(3.40)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.77、川崎市は1.72、全国は1.20でした。
- 5 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。7月は、6月に比べて横ばい傾向ですが、性器クラミジア感染症はやや増加傾向です。19歳以下の若年層については、性器クラミジア感染症で男性は1例ですが、女性は6例と多くなっています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

**今月のトピックス**

麻疹報告数は引き続き減少していますが、第 3 期、第 4 期の予防接種率はそれぞれ 41.4%、28.6%と低水準で、依然集団感染等のリスクがあります。未接種者に接種勧奨をお願いします。

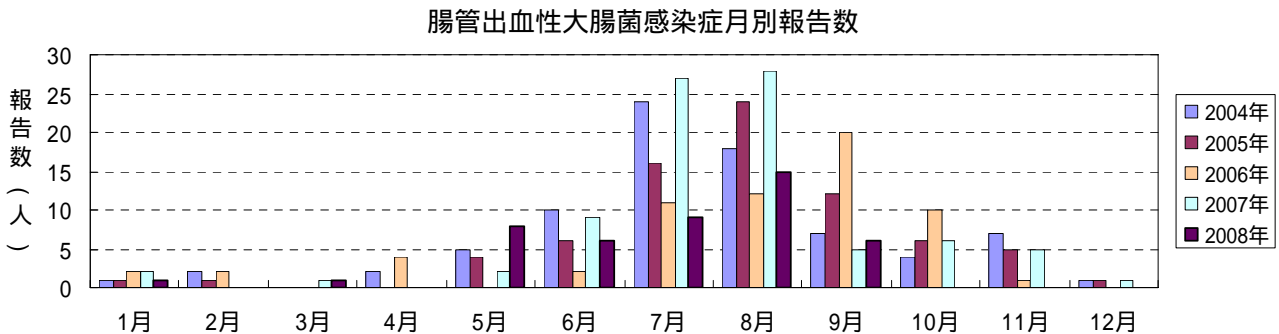
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病の今後の発生動向に注意が必要

平成 20 年 8 月 18 日から平成 20 年 9 月 21 日まで(平成 20 年第 34 週から第 38 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 8 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

第 34 週	8 月 18 ~ 24 日
第 35 週	8 月 25 ~ 31 日
第 36 週	9 月 1 ~ 7 日
第 37 週	9 月 8 ~ 14 日
第 38 週	9 月 15 ~ 21 日

**全数把握の対象**

- 腸管出血性大腸菌感染症:**9 月の報告数は、25 日現在で 6 例です。うち、無症状病原体保有者が 3 例です。年齢の内訳は、10 歳未満が 1 例、20 代が 1 例、30 代が 1 例、50 代が 1 例、60 代が 1 例、70 代が 1 例でした。



啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> も合わせてご覧ください。

- レジオネラ症:**9 月は 25 日現在で 4 例の報告がありました。1 月からの報告数は 21 例となり、多かった昨年とほぼ同じペースです。全国でも、第 38 週までの累計は 654 例と、かなり多くなっています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年38週)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	654
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	37
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	21

レジオネラ症については、平成 15 年 4 月より、尿中レジオネラ抗原検査が保険適用になり、診断が迅速に出来るようになりました。しかし、レジオネラ肺炎は、早期に適切な治療(マクロライド系、ニューキノロン系、リファンピシンの投与等)を行わないと、症状が急激に悪化したり、致命的になる場合があります。高齢者や、糖尿病などの基礎疾患がある人は注意が必要です。また、肺炎患者においては、循環式浴槽やジャグジーなどの入浴施設の利用を確認する事も必要と思われまます。

- 麻疹:**1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)



横浜市では、第38週(9/15～21)までの累計報告数は1466例で、全国の報告数10794例の13.6%です。最近5週間(第34週～第38週)の報告数は9例で、全国の報告数132例の6.8%となっています。年齢別では、約半数が10代で、予防接種前の0歳にも多く発症しています。また、全体の約半数が予防接種未接種でした。

平成20年4月1日から6月30日までの第3期、第4期の予防接種率は、それぞれ41.4%、28.6%でした。



2012年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

## 定点把握の対象

平成20年 週 - 月日対照表

1 **インフルエンザ**: 8月下旬に市内の全寮制の訓練校でインフルエンザの集団発生がありました。有熱症状を訴えた者は20歳代男性を中心とした45名で、検体を採取した5名からA香港型が検出されました。

第34週	8月18～24日
第35週	8月25～31日
第36週	9月1～7日
第37週	9月8～14日
第38週	9月15～21日

2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 今シーズンは過去6年間で最も高い値で推移していましたが、第34週は定点あたり0.21と例年並みになりました。その後少し増加し、第38週は定点あたり1.00でした。行政区別では港北区(4.17)、栄区(3.00)が高くなっています。例年、冬季にもピークが見られるので、今後の動向に注意が必要です。川崎市は1.16と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.86、全国は0.81でした。

3 **手足口病**: 第30週に定点あたり4.01とピークを迎え、その後減少しましたが、第36週は定点あたり2.50と増加しました。第38週は1.78です。行政区別では、中区(5.00)、港北区(4.67)、港南区(3.50)となっています。秋に小さな流行が見られることがありますので今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.09、川崎市は1.47、全国は1.29でした。

4 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

8月は、7月に比べて性器クラミジア感染症はやや減少傾向、淋菌感染症はやや増加傾向です。19歳以下の若年層については、男性はありませんでしたが、女性は性器クラミジア感染症で2例見られました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

**今月のトピックス**

レジオネラ症の報告数が、今年に入ってから 27 例と多い  
 RS ウイルス感染症、インフルエンザは昨シーズンと同様に早く増加の兆し  
 百日咳の報告数は昨年より多く、DPT 接種歴のある幼児においても発生している

平成 20 年 9 月 22 日から平成 20 年 10 月 26 日まで(平成 20 年第 39 週から第 43 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 9 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 年 週 - 月日対照表	
第 39 週	9 月 22 ~ 28 日
第 40 週	9 月 29 ~ 10 月 5 日
第 41 週	10 月 6 ~ 12 日
第 42 週	10 月 13 ~ 19 日
第 43 週	10 月 20 ~ 26 日

**全数把握の対象**

- 腸管出血性大腸菌感染症:**10 月の報告数は、30 日現在で 5 例です。うち、10 代の女性が HUS を起こし入院となりました。年齢の内訳は、10 代が 1 例、20 代が 1 例、30 代が 2 例、40 代が 1 例でした。
- レジオネラ症:**10 月は 30 日現在で 5 例の報告がありました。1 月からの報告数は 27 例となり、多かった昨年 1 年間の 28 例に近い報告数です。うち、40 代の男性がレジオネラ症と診断された後に亡くなっています。全国でも、第 43 週までの累計は 738 例と、すでに昨年の報告数を上回っています。(表参照)

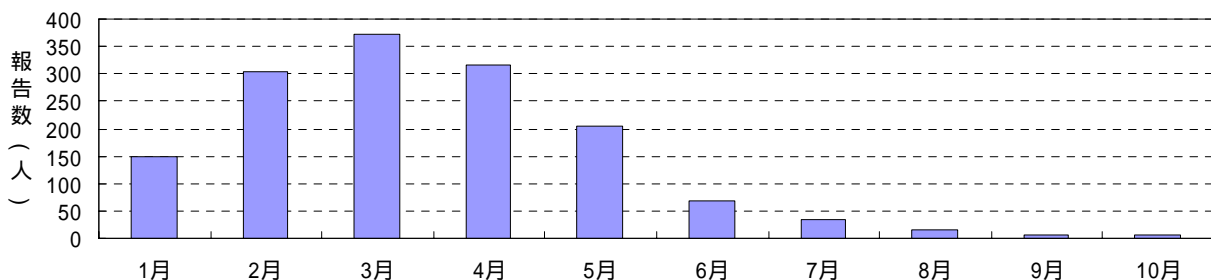
レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年43週)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	738
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	46
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	27

レジオネラ症については、2003 年 4 月より、尿中レジオネラ抗原検査が保険適用になり、診断が迅速に出来るようになりました。しかし、レジオネラ肺炎は、早期に適切な治療(マクロライド系、ニューキノロン系、リファンピシンの投与等)を行わないと、症状が急激に悪化したり、致命的になる場合があります。高齢者や、糖尿病などの基礎疾患がある人は注意が必要です。また、肺炎患者においては、循環式浴槽やジャグジーなどの入浴施設の利用を確認する事も必要と思われれます。

- 麻疹:**1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 横浜市では、第 43 週(10/20～26)までの累計報告数は 1474 例で、全国の報告数 10871 例の 13.6%です。最近 5 週間(第 39 週～第 43 週)の報告数は 8 例で、全国の報告数 77 例の 10.4%となっています。年齢別では、約半数が 10 代で、予防接種前の 0 歳にも多く発症しています。また、全体の約半数が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数



2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

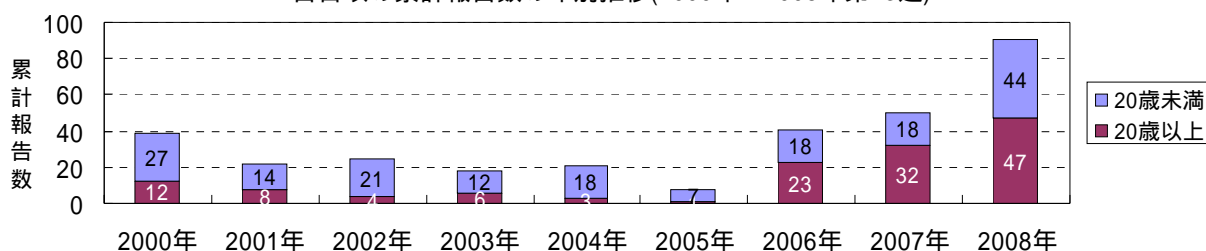
《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します》  
 風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握  
 1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底  
 5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

## 定点把握の対象

平成20年 週 - 月日対照表

- | 週    | 月日         |
|------|------------|
| 第39週 | 9月22～28日   |
| 第40週 | 9月29～10月5日 |
| 第41週 | 10月6～12日   |
| 第42週 | 10月13～19日  |
| 第43週 | 10月20～26日  |
- 1 **インフルエンザ**: 第40週に今シーズン初発のA型インフルエンザの報告が戸塚区からあり、第41週には栄区からB型インフルエンザの初発の報告がありました。初発の報告は、過去6年間で最も流行開始が早かった昨年と同時期です。  
 これまでに、戸塚、栄、瀬谷、鶴見、旭、金沢の6区から報告があり、第43週の定点あたり報告数は0.07でした。これから流行期に入っていくと思われますので注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.01、川崎市は0.00、全国は0.06でした。  
 横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。  
[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ\\_yobou.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html)
  - 2 **RSウイルス感染症**: 例年冬季に流行が見られますが、今年は立ち上がり早く、第37週から増加の兆しが見られ、第42週には定点あたり0.49、第43週は0.47と過去のピーク時に近い値となりました。今後も増加の可能性がありますので動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.26、川崎市は0.55、全国は0.59でした。
  - 3 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 今シーズンは過去6年間で最も高い値で推移しています。第43週は定点あたり1.22でした。行政区別では港北区(5.00)、中区(4.67)が高くなっています。今後の動向に注意が必要です。川崎市は2.39と高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.95、全国は1.42でした。
  - 4 **手足口病**: 第30週に定点あたり4.06とピークを迎え、その後はあまり減少せず、第43週は定点あたり1.52と流行が小さかった年のピーク時くらいの値を推移しています。行政区別では、磯子区(5.25)、港南区(3.60)、中区(3.33)となっています。秋に小さな流行が見られることがありますので今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.18、川崎市は0.45、全国は0.85でした。
  - 5 **百日咳**: 第43週は13例の報告がありました。1月からの報告数は91例となり、現時点ですでに昨年の報告数50例を大きく上回っています。成人とともに、DPT接種後の幼児の報告も見られており、今後注意が必要です。

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第43週)



- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。  
 9月は、8月に比べて性器クラミジア感染症はやや増加傾向ですが、他は横ばいです。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で3例、女性は性器クラミジア感染症で2例、性器ヘルペスウイルス感染症で1例、尖圭コンジローマで1例、淋菌感染症で1例と、8月に比べて多くなっています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



**今月のトピックス**

RS ウイルス感染症、インフルエンザは昨シーズンと同様に早く増加  
 感染性胃腸炎の集団発生が小学校を中心に多い  
 百日咳の報告数は昨年より多く、DPT 接種歴のある幼児においても発生している

平成 20 年 10 月 20 日から平成 20 年 11 月 23 日まで(平成 20 年第 43 週から第 47 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 10 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 年 週 - 月日対照表	
第 43 週	10 月 20 ~ 26 日
第 44 週	10 月 27 ~ 11 月 2 日
第 45 週	11 月 3 ~ 9 日
第 46 週	11 月 10 ~ 16 日
第 47 週	11 月 17 ~ 23 日

**全数把握の対象**

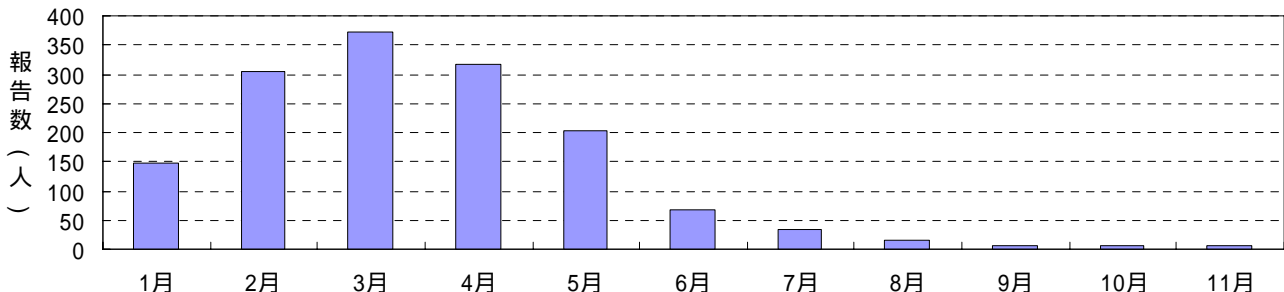
- 腸管出血性大腸菌感染症:**11 月の報告数は、27 日現在で 11 例です。うち、10 代の 5 例は集団食中毒事例でした。年齢の内訳は、10 歳未満が 2 例、10 代が 5 例、20 代が 1 例、30 代が 2 例、40 代が 1 例でした。
- レジオネラ症:**11 月は 27 日現在で 2 例の報告がありました。1 月からの報告数は 30 例(うち 29 例は肺炎型)となり、現時点で多かった昨年 1 年間の報告数 28 例を上回っています。  
 全国でも、第 47 週までの累計は 809 例と、すでに昨年の報告数 665 例を大きく上回っています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年47週)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	809
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	53
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	30

- 麻疹:**1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 横浜市では、11 月 27 日までの累計報告数は 1479 例で、全国の報告数 10942 例の 13.5%です。年齢別では、10 代(50.6%)が多く、予防接種前の 0 歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の 48.4%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数



2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1 歳～高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008 年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

## 定点把握の対象

平成 20 年 週 - 月日対照表

第 43 週	10 月 20 ~ 26 日
第 44 週	10 月 27 ~ 11 月 2 日
第 45 週	11 月 3 ~ 9 日
第 46 週	11 月 10 ~ 16 日
第 47 週	11 月 17 ~ 23 日

- 1 **インフルエンザ**: 第 40 週に今シーズン初発の A 型インフルエンザの報告があり、第 41 週には B 型インフルエンザの初発の報告がありました。初発の報告は、過去 6 年間で最も流行開始が早かった昨年と同時期です。

これまでに、西、中、南以外の 15 区から報告があり、区によってはすでに流行開始の目安となる定点あたり「1.0」を越えています。市全体の第 47 週の定点あたり報告数は 0.49 でした。これから流行期に入っていくと思われるので注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 0.43、川崎市は 0.13、全国は 0.56 でした。

横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ\\_yobou.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html)

- 2 **RS ウイルス感染症**: 例年冬季に流行が見られますが、今年は立ち上がり早く、第 37 週から増加の兆しが見られ、第 47 週は定点あたり 1.02 と過去のピーク時より高い値となりました。行政区別では磯子区(8.75)からの報告が目立ちます。今後も増加の可能性がありますので動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 0.60、川崎市は 0.45 でした。全国は 0.99 と高い値です。

- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 今シーズンは過去 6 年間で最も高い値で推移しています。第 47 週は定点あたり 1.44 でした。行政区別では港北区(8.33)が高く、次いで緑区(3.75)、磯子区(2.25)、栄区(2.00)となっています。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 1.63、川崎市は 2.06、全国は 1.79 でした。

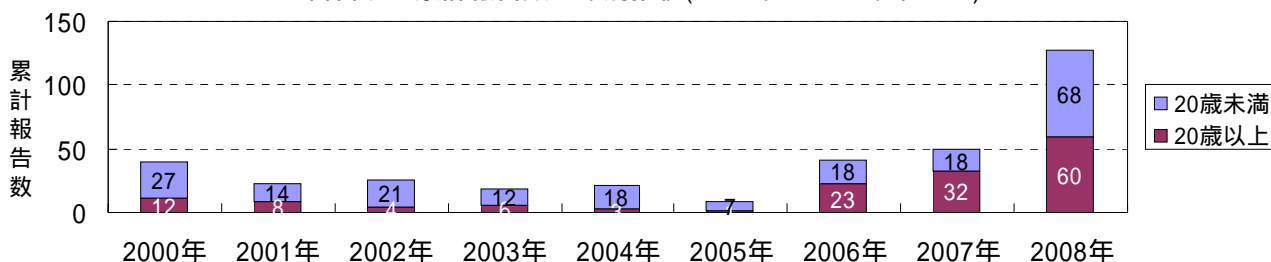
- 4 **感染性胃腸炎**: 第 43 週から増加の兆しが見られ、第 47 週の定点あたり報告数は 7.33 でした。流行の大きかった 2006 年ほどではありませんが、昨年と同じくらいの値を推移しています。今後は流行期に入っていくと思われるので動向に注意が必要です。行政区別では港北区(13.83)、戸塚区(12.17)、緑区(12.00)、港南区(10.40)、中区(10.33)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 10.41、川崎市は 13.76 と、どちらも横浜市より高い値です。全国は 6.72 でした。

集団発生が小学校を中心に報告されています。手洗い、うがいの励行など、予防の啓発に努めていくことも重要と思われます。

- 5 **手足口病**: 第 30 週に定点あたり 4.06 とピークを迎え、その後しばらく横ばい状態が続いていましたが、第 47 週は定点あたり 0.72 と減少しています。

- 6 **百日咳**: 第 47 週は 3 例の報告がありました。やや治まってきていますが、第 45 週には 20 例の報告がありました。港南区からの報告が多く見られます。1 月からの報告数は 128 例となり、現時点ですでに昨年の報告数 50 例を大きく上回っています。成人とともに、DPT 接種歴のある幼児の報告も見られており、今後注意が必要です。

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第47週)



- 7 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

10 月は、9 月に比べて全体としては横ばいです。しかし、19 歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で 1 例、性器ヘルペスウイルス感染症で 1 例、淋菌感染症で 2 例、女性は性器クラミジア感染症で 5 例、性器ヘルペスウイルス感染症で 1 例と、8 月に引き続きやや多い傾向が続いています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

**今月のトピックス**

インフルエンザは例年より早くすべての区が流行期に入りました。  
 感染性胃腸炎が引き続き増加し、集団発生も見られています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は冬季の流行が見られています。

平成 20 年 11 月 17 日から平成 20 年 12 月 21 日まで(平成 20 年第 47 週から第 51 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 11 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 年 週 - 月日対照表	
第 47 週	11 月 17 ~ 23 日
第 48 週	11 月 24 ~ 30 日
第 49 週	12 月 1 ~ 7 日
第 50 週	12 月 8 ~ 14 日
第 51 週	12 月 15 ~ 21 日

**全数把握の対象**

1 **レジオネラ症**: 12 月は 25 日現在で 2 例の報告がありました。1 月からの報告数は 32 例(うち 31 例は肺炎型)となり、昨年 1 年間の報告数 28 例を上回り、これまでで最も多い報告数となっています。

全国でも、12 月 25 日までの累計は 864 例と、すでに昨年の報告数 665 例を大きく上回っています。(表参照)

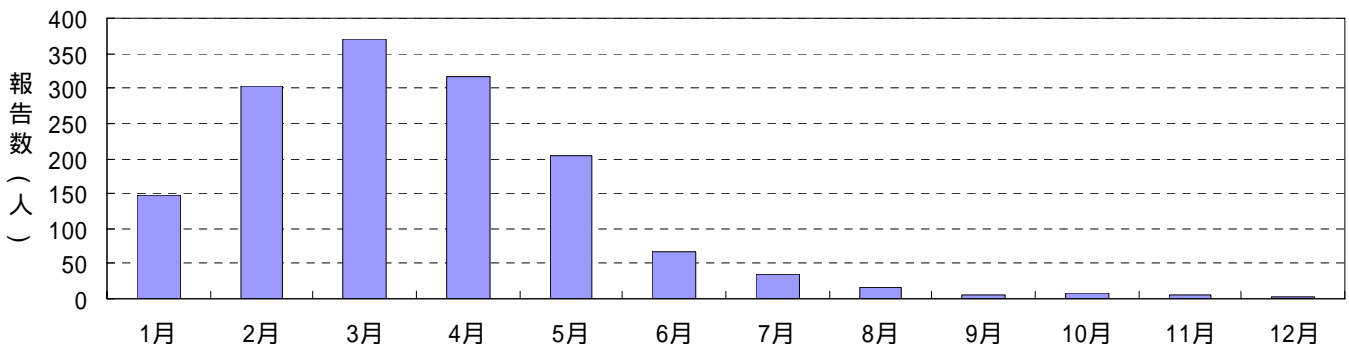
レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	864
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	58
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	32

2 **麻疹**: 1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

12 月は 25 日現在で 3 例の報告がありました。横浜市における 1 月からの累計報告数は 1482 例で、全国の報告数 10990 例の 13.5%です。年齢別では、10 代(50.5%)が多く、予防接種前の 0 歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の 48.4%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数



2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1 歳～高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008 年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

## 定点把握の対象

### 平成 20 年 週 - 月日対照表

- 1 **インフルエンザ**:第 40 週に今シーズン初発の A 型インフルエンザの報告があり、第 41 週には B 型インフルエンザの初発の報告がありました。過去 6 年間で最も早かった昨シーズンに次いで早く、第 49 週に流行の目やすとなる「1.0」を超え、第 51 週の定点あたり報告数は 4.70 と、増加しています。

週	月日
第 47 週	11 月 17 ~ 23 日
第 48 週	11 月 24 ~ 30 日
第 49 週	12 月 1 ~ 7 日
第 50 週	12 月 8 ~ 14 日
第 51 週	12 月 15 ~ 21 日

区別では、緑区(14.00)、戸塚区(8.40)、港北区(6.64)、瀬谷区(6.17)、泉区(5.67)、都筑区(5.29)の順で多く報告されており、すべての区で流行期に入っています。早期のワクチン接種が望まれます。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 3.56、川崎市は 2.48、全国は 4.68 でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 51 週に A 型 407 件、B 型 110 件の報告がありました。また、第 47 週以降の病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて 29 件あり、その内訳は AH1 亜型(ソ連型)8 件(28%)、AH3 亜型(香港型)15 件(52%)、B 型 6 件(21%)となっています。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

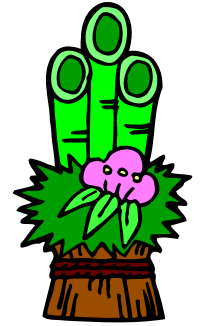
- 2 **RS ウイルス感染症**:例年冬季に流行が見られますが、今年は立ち上がり早く、第 37 週から増加の兆しが見られ、第 47 週に定点あたり 0.97 とピークとなり、その後減少し、第 51 週は 0.18 でした。行政区別では磯子区(1.75)が多く、港北区、青葉区、南区、港南区からも報告があります。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 0.64、川崎市は 0.61、全国は 0.98 と、横浜市より高い値です。
- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。今シーズンも、第 34 週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第 49 週には定点あたり 2.52 となりました。第 51 週は少し減少して 2.09 でした。行政区別では港北区(8.00)が高く、次いで磯子区(3.75)、青葉区(2.67)、栄区(2.67)となっています。過去 6 年間で最も高い値で推移しているため、今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 2.56、川崎市は 2.94、全国は 2.43 でした。
- 4 **感染性胃腸炎**:第 43 週から増加の兆しが見られ、第 51 週の定点あたり報告数は 18.51 と、今シーズンで最も高い値となりました。流行の大きかった 2006 年ほどではありませんが、昨年と同じくらいの値を推移しており、動向に注意が必要です。行政区別では瀬谷区(34.33)、緑区(33.33)、神奈川区(23.00)、泉区(22.25)、都筑区(22.00)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 21.14、川崎市は 26.82 と、どちらも横浜市より高い値です。全国は 15.85 でした。
- 集団発生が小学校を中心に報告されており、ノロウイルスが主に検出されています。手洗い、うがいの励行など、予防の啓発に努めていくことも重要と思われます。
- 5 **水痘**:例年、年末にかけて発生が増加します。今シーズンも増加傾向が続いており、第 51 週の定点あたり報告数は 2.41 と、今シーズンで最も高い値となりました。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 2.82、川崎市は 2.88、全国は 2.28 でした。
- 6 **百日咳**:第 45 週には 20 例の報告がありましたが、その後は減少し、第 51 週には報告が 0 になりました。
- 7 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。
- 11 月は、10 月に比べて全体としては横ばいです。19 歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で 2 例、淋菌感染症で 1 例、女性は性器クラミジア感染症で 1 例、性器ヘルペスウイルス感染症で 3 例と、10 月に比べて減ってはいますが、女性の性器ヘルペスウイルス感染症に 10 ~ 14 歳の感染者がおり低年齢化が懸念されます。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における1～5類感染症）

昨年12月は腸チフスの報告が1例あり、ラオスからの帰国者でした。

レジオネラ症の昨年1年間の報告数は、前年の4倍でした。

1月1日から、麻しんおよび風しんが全数報告になりました。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における5類感染症）平成19年11月19日～12月23日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		過去10年間と比べて、最も早く流行期に入りました。Aソ連型が全区で流行しています。咳エチケットを心がけましょう。
<u>感染性胃腸炎</u>		11月末～12月にかけてかなり増加しました。集団発生の報告もあるため、引き続き注意が必要です。
<u>RSウイルス感染症</u>		乳幼児の肺炎や細気管支炎の原因になります。12月は報告が増加しました。引き続き動向に注意が必要です。
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		冬季の流行に向かって増加傾向が続いており、今後の動向に注意が必要です。
<u>水痘</u>		例年、年末にかけて発生が増加します。今年も増加傾向が続いており、動向に注意が必要です。
<u>麻しん（はしか）</u>		油断することなく、次の流行時に適切な対応がとれるように準備しておく事が大切です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. いま流行っている病気とその予防法

- インフルエンザに気をつけましょう。予防には、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。咳エチケットを心がけましょう。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/pdf/01c.pdf>

市内の最新情報は、下記をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2007nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/sokuhou.pdf)

- ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行します。ノロウイルスの特徴を理解し、ノロウイルスによる感染を予防しましょう。最も有効な感染予防策は手洗い（調理や食事の前、トイレや汚物処理の後など）です。



## 4. 注意すること

- 海外旅行では、感染症に注意しましょう。詳しくは、厚生労働省ホームページ（年末年始に海外へ渡航される皆様へ）をご覧ください。  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou17/04.html>
- 麻しんをなくしていくために、1期（1歳）と2期（小学校入学前の1年間）、計2回の予防接種を忘れず受けましょう。特に、4月からの小学校入学に備え、1月～3月の間に、1期接種を受けることが重要です。4月より5年間、中1及び高3相当の年齢にも定期接種が実施される予定です。詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。  
[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic\\_inf/kansen\\_khama.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html)

子供の感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症 (感染症法における1～5類感染症)

1月1日から、麻しんおよび風しんが全数報告になりました。

麻しん(はしか)は、全国の報告の約40%を神奈川県が占め、その多くが、横浜市と横須賀市からの報告です。横浜市内では100例以上報告されており、その半数以上が予防接種を受けていません。

春に向けてさらなる流行が心配されます。ワクチンを未接種の人は、是非早めに接種しましょう。

レジオネラ症は、昨年1年間の報告数が前年の4倍でしたが、1月も3例と報告が続いています。

## 2. 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)平成19年12月24日～20年1月27日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		年末年始にかけて減少しましたが、再度増加中です。学級閉鎖等の報告もあり、Aソ連型が流行しています。咳エチケットを心がけましょう。
<u>感染性胃腸炎</u>		12月に比べて減少しましたが、集団発生の報告もあるため、引き続き注意が必要です。
<u>RSウイルス感染症</u>		乳幼児の肺炎や細気管支炎の原因になります。12月に比べ減少しました。
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		昨年は2月～3月にかけて報告が多かったので、今後の動向に注意が必要です。

: 流行、  
 : 増加傾向、  
 : やや流行、  
 : 横ばい、  
 : 散発、  
 : 減少傾向、  
 : 患者報告なし

## 3. いま流行っている病気とその予防法

- ・ 麻しん(はしか)に気をつけましょう。

1期(1歳)と2期(小学校入学前の1年間)、計2回の予防接種を忘れず受けましょう。

特に、4月からの小学校入学に備え、2期接種を徹底することが重要です。

横浜市の詳細と注意事項については、「麻しん(はしか)の流行について」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf)

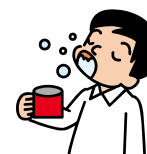
- ・ インフルエンザに気をつけましょう。予防には、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。咳エチケットを心がけましょう。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/pdf/01c.pdf>

市内の最新情報は、下記をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf)

- ・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行します。ノロウイルスの特徴を理解し、ノロウイルスによる感染を予防しましょう。最も有効な感染予防策は手洗い(調理や食事の前、トイレや汚物処理の後など)です。



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic\\_inf/kansen\\_khama.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html)

子供の感染症については、

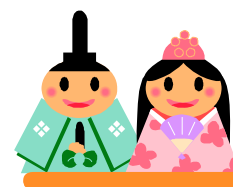
こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（**感染症法**における1～5類感染症）

1月1日から、麻しんおよび風しんが全数報告になりました。

**麻しん(はしか)**は、横浜市では、すでに400例以上の報告があり、全国の約14%にもなっています。内訳では、10代が過半数を占め、約半数が予防接種を受けていません。

春に向けてさらなる流行が心配されます。**ワクチンを未接種の人は、是非早めに接種しましょう。**

## 2. **定点**報告感染症(**感染症法**における5類感染症)平成20年1月21日～20年2月24日

疾患名	市内流行状況	コメント
<a href="#">インフルエンザ</a>		今シーズンは、早くからAソ連型を中心に流行しましたが、2月に入り減少傾向です。
<a href="#">感染性胃腸炎</a>		1月以降は横ばいが続いています。集団発生の報告もあるため、引き続き注意が必要です。
<a href="#">RSウイルス感染症</a>		乳幼児の肺炎や細気管支炎の原因になります。12月に多く、以後は減少しています。インフルエンザとの重複感染も見られます。
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>		昨年は2月～3月にかけて報告が多かったので、今後も動向に注意が必要です。

：流行、：増加傾向、：横ばい、：減少傾向  
：やや流行、：患者報告なし

## 3. いま流行っている病気とその予防法

- ・ **麻しん(はしか)**に気をつけましょう。

期(1歳)と 期(小学校入学前の1年間)、計2回の予防接種を忘れず受けましょう。

特に、4月からの小学校入学に備え、 期接種を徹底することが重要です。

横浜市の詳細と注意事項については、「麻しん(はしか)の流行について(3)」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf)

- ・ インフルエンザに気をつけましょう。予防には、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。咳エチケットを心がけましょう。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/pdf/01c.pdf>

市内の最新情報は、下記をご覧ください。

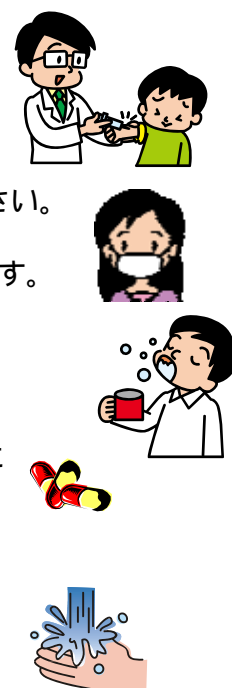
[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf)

横浜市でタミフル耐性インフルエンザウイルスが検出されましたが、局地的な小流行にとどまり、終息しました。詳しくは下記をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf)

- ・ ノロウイルスの特徴を理解し、**ノロウイルスによる感染を予防しましょう。**

最も有効な感染予防策は手洗い(調理や食事の前、トイレや汚物処理の後など)です。



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic\\_inf/kansen\\_khama.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html)

子供の感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における1～5類感染症）

1月1日から、麻しんおよび風しんが全数報告になりました。

麻しん（はしか）は、横浜市では、すでに800例以上の報告があり、全国の約15%にもなっています。

内訳では、10代が過半数を占め、約半数が予防接種を受けていません。

春に向けてさらなる流行が心配されます。**ワクチンを未接種の人は、是非早めに接種しましょう。**

## 2. 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)平成20年2月25日～20年3月30日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		今シーズンは、早くからAソ連型を中心に流行しましたが、3月に入り終息傾向です。
<u>感染性胃腸炎</u>		集団発生の報告もあったため、例年に比べ、2月中旬～3月にかけてかなり増加しました。現在は減少していますが、引き続き注意が必要です。
<u>RSウイルス感染症</u>		乳幼児の肺炎や細気管支炎の原因になります。12月に多く、以後は減少しています。
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		3月に入り減少しましたが、過去5年間に比べて高い値が続いているので、今後も動向に注意が必要です。
<u>マイコプラズマ肺炎</u>		2月下旬～3月にかけて増加しました。昨年の同時期より多く報告されているので注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. いま流行っている病気とその予防法

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。

4月1日から、1期(1歳)と2期(小学校入学前の1年間)に加え、3期(中1相当の年齢)、4期(高3相当の年齢)の定期接種が始まりました。

2012年までの5年間で、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指します。

また、横浜市では、緊急対策として、1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

**是非、この機会に早めに接種を受けましょう！**

横浜市の詳細と注意事項については、「麻しん（はしか）の流行について(5)」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf)

- ・ ノロウイルスの特徴を理解し、ノロウイルスによる感染を予防しましょう。

最も有効な感染予防策は手洗い(調理や食事の前、トイレや汚物処理の後など)です。



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic\\_inf/kansen\\_khama.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html)

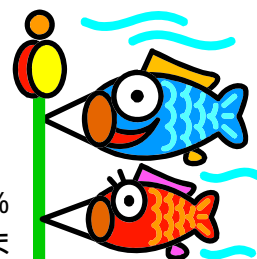
子供の感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における1～5類感染症）

1月1日から、麻しんおよび風しんが全数報告になりました。

麻しん（はしか）は、横浜市では、すでに1200例以上の報告があり、全国の約15%にもなっています。内訳では、10代が過半数を占め、約半数が予防接種を受けていません。

## 2. 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)平成20年3月31日～20年5月4日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		今シーズンは、流行開始が例年に比べ非常に早かったものの、ピークは低く、過去5年間で最低の水準となりました。流行は、ほぼ終息したと考えられます。
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		一旦減少しましたが、4月中旬以降また増加しています。過去5年間に比べて高い値が続いており、例年5月から6月にかけて増加するので、今後も動向に注意が必要です。
<u>感染性胃腸炎</u>		例年に比べ、2月中旬～3月にかけてかなり増加しましたが、現在は例年並みの水準です。全国的には例年より高めの水準で、引き続き注意が必要です。
<u>百日咳</u>		成人の報告例が見られます。成人の重症例は少ないですが、感染源となる可能性があり注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 今はやっている病気とその予防法

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。

4月1日から、1歳と12歳期(小学校入学前の1年間)に加え、15歳期(中1相当の年齢)、20歳期(高3相当の年齢)の定期接種が始まりました。2012年までの5年間で、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指します。

また、横浜市では、緊急対策として、1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

**是非、この機会に早めに接種を受けましょう！**

横浜市の詳細と注意事項については、「麻しん（はしか）の流行について(5)」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf)

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。抗生剤による治療が有効ですので、発熱や喉の痛みなどの症状があらわれたときは、速やかに医療機関を受診しましょう。予防には、患者さんとの濃厚接触をさけて、うがい、手洗いをしましょう。詳しくは、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0502.pdf>をご覧ください。

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

子供の感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

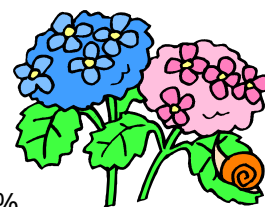
[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症(感染症法における1～5類感染症)

麻しん(はしか)は、横浜市では、すでに1300例以上の報告があり、全国の約15%にもなっています。内訳では、10代が過半数を占め、約半数が予防接種を受けていません。

腸管出血性大腸菌感染症は、5月としては過去5年間でもっとも多く発生しており、これからの季節に増加するので今後注意が必要です。

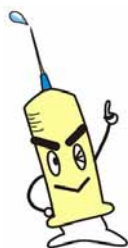
## 2. 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)平成20年4月28日～20年6月1日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		過去5年間に比べてかなり高い値が続いており、例年5月から6月にかけて増加するので、今後も動向に注意が必要です。
<u>百日咳</u>		成人の報告例が多く見られます。成人の重症例は少ないですが、感染源となる可能性があり注意が必要です。
<u>ヘルパンギーナ</u>		少し増加の傾向が見られます。例年、6月に入り急に増加してくるため、これからの季節は注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 今はやっている病気とその予防法

- ・ 麻しん(はしか)に気をつけましょう。

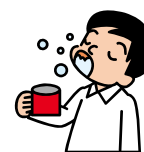


4月1日から、期(1歳)と期(小学校入学前の1年間)に加え、期(中1相当の年齢)、期(高3相当の年齢)の定期接種が始まりました。2012年までの5年間で、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指します。

また、横浜市では、緊急対策として、1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

**是非、この機会に早めに接種を受けましょう！**

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。抗生剤による治療が有効ですので、発熱や喉の痛みなどの症状があらわれたときは、速やかに医療機関を受診しましょう。予防には、患者さんとの濃厚接触をさけて、うがい、手洗いをしましょう。詳しくは、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0502.pdf>をご覧ください。



- ・ 腸管出血性大腸菌感染症(O157等)に注意が必要です。生肉(生レバー等)や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱(75℃ 1分間以上)をしましょう。また、手洗いを心がけ、特にトイレの後や搾乳体験の時など動物とふれあった後には、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。詳しくは、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>をご覧ください。



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

子供の感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症(感染症法における1～5類感染症)

**麻しん(はしか)**は、横浜市では減少傾向が見られていますが、今年に入って1400例以上の報告があり、全国の約14%にもなっています。内訳では10代が過半数を占め、約半数が予防接種を受けていません。

6月は**腸管出血性大腸菌感染症**(O157等)が6例報告されています。これからの季節に増加するので、今後には注意が必要です。

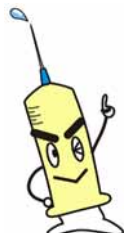
## 2. 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)平成20年5月19日～6月22日

疾患名	市内流行状況	コメント
<b>咽頭結膜熱</b>		例年に比べて立ち上がりが遅かったのですが、増加してきました。今後の動向に注意が必要です。 <b>啓発用チラシ</b>
<b>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</b>		過去6年間に比べてかなり高い値が続いており、今後も動向に注意が必要です。
<b>手足口病</b>		やや増加しています。例年夏にかけて増加するので、今後の動向に注意が必要です。
<b>百日咳</b>		成人の報告例が多く見られます。成人の重症例は少ないですが、感染源となる可能性があり注意が必要です。
<b>ヘルパンギーナ</b>		増加の傾向が見られます。例年、7月に急に増加してくるため、これからの季節は注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 今はやっている病気とその予防法

- ・ **麻しん(はしか)**に気をつけましょう。



4月1日から、**1歳期**(1歳)と**1歳前**(小学校入学前の1年間)に加え、**年中1相当の年齢**、**高3相当の年齢**の定期接種が始まりました。2012年までの5年間で、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指します。

また、横浜市では、**緊急対策**として、1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっている方への、市費による予防接種(任意接種)を実施しています。**是非、この機会に早めに接種を受けましょう!**

- ・ **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**の報告数が増加しています。抗生剤による治療が有効ですので、発熱や喉の痛みなどの症状があらわれたときは、速やかに医療機関を受診しましょう。予防には、患者さんとの濃厚接触をさけて、うがい、手洗いをしましょう。詳しくは、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0626.pdf>をご覧ください。



- ・ **腸管出血性大腸菌感染症**(O157等)に注意が必要です。



生肉(生レバー等)や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱(75℃ 1分間以上)をしましょう。また、手洗いを心がけ、特にトイレの後や搾乳体験の時など動物とふれあった後には、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。詳しくは、

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>をご覧ください。



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

子供の感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における1～5類感染症）

麻しん（はしか）は、6月に引き続き減少傾向が見られています。現在までに1400例以上の報告があり、全国の約14%です。10代が過半数を占め、予防接種前の0歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。

7月は腸管出血性大腸菌感染症（O157等）が9例報告されています。毎年、夏に報告が多いので、注意が必要です。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における5類感染症）平成20年6月23日～7月27日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>咽頭結膜熱（プール熱）</u>		6月から増加傾向となり、やや高い値で推移しています。今後の動向に注意が必要です。 <a href="#">啓発用チラシ</a>
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		7月は減少傾向が続いていますが、過去6年間で最も高い値で推移しています。
<u>手足口病</u>		7月下旬にピークを迎えています。今後の動向に注意が必要です。
<u>ヘルパンギーナ</u>		7月中旬にピークを迎えました。現在はやや減少していますが、今後の動向に注意が必要です。

：流行、 ：やや流行、 ：散発、 ×：患者報告なし  
：増加傾向、 ：横ばい、 ：減少傾向

## 3. いま流行している病気とその予防法

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。  
4月1日から、1期（1歳）と2期（小学校入学前の1年間）に加え、3期（中1相当の年齢）、4期（高3相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012年までの5年間で、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指します。  
また、横浜市では、緊急対策として、1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種（任意接種）を実施しています。**是非、夏休み中に接種を受けましょう！**
- ・ 咽頭結膜熱（プール熱）、手足口病、ヘルパンギーナなど夏に流行する病気が増加しています。手洗い・うがいを心がけ、ハンカチ、タオルの共用はやめましょう。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症（O157等）に注意が必要です。



生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1分間以上）をしましょう。また、手洗いを心がけ、特にトイレの後や搾乳体験の時など動物とふれあった後には、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。詳しくは、「腸管出血性大腸菌感染症 O157に注意しましょう」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>



## 4. 夏休みに注意すること

- ・ 海外旅行では、感染症に注意しましょう。詳しくは、「夏休み期間中における海外での感染症予防について（厚生労働省）」をご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/natuyasumi/2008.html>

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

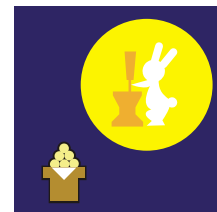
[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における1～5類感染症）

麻しん（はしか）は、7月に引き続き減少しています。

現在までに1400例以上の報告があり、全国の約14%です。10代が過半数を占め、予防接種前の0歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。8月は腸管出血性大腸菌感染症（O157等）が15例報告されています。9月にも報告が多いので、注意が必要です。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における5類感染症）平成20年7月28日～8月31日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>咽頭結膜熱（プール熱）</u>		6月から増加傾向となり、7月にピークを迎えた後は、減少傾向です。 <u>啓発用チラシ</u>
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		過去6年間で最も高い値で推移していましたが、現在は例年並みになっています。秋から冬にかけて少し増えていくので、9月末に向けては動向に注意が必要です。
<u>手足口病</u>		7月下旬にピークを迎え、その後は減少傾向です。秋に小さな流行が見られることがありますので今後の動向に注意が必要です。
<u>ヘルパンギーナ</u>		6月から増加傾向となり、7月中旬にピークを迎え、現在は減少しています。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. いま流行している病気とその予防法

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。

4月1日から、1期（1歳）と2期（小学校入学前の1年間）に加え、3期（中1相当の年齢）、4期（高3相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012年までの5年間で、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指します。

また、横浜市では、緊急対策として、1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっている方への、市費による予防接種（任意接種）を実施しています。是非、この機会に接種を受けましょう！

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症（O157等）に注意が必要です。



生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1分間以上）をしましょう。また、手洗いを心がけ、特にトイレの後や搾乳体験の時など動物とふれあった後には、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。詳しくは、「腸管出血性大腸菌感染症 O157に注意しましょう」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>



## 4. そのほかに注意すること

- ・ 海外旅行では、感染症に注意しましょう。詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/natuyasumi/2008.html>

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

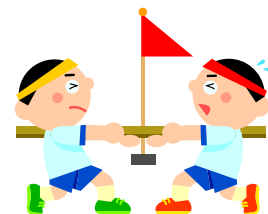
こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）

**麻しん（はしか）**は、8月に引き続き減少しています。

現在までに 1400 例以上の報告があり、全国の約 14%です。10代が過半数を占め、予防接種前の 0 歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。

**腸管出血性大腸菌感染症**（O157 等）は 7 例報告されています。

**レジオネラ症**は 4 例の報告がありました。1 月からの報告数は 21 例となり、多かった昨年とほぼ同じペースです。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 20 年 9 月 1 日～9 月 28 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<b>A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎</b>		現在は少ないですが、例年、冬季にもピークが見られるので、今後の動向に注意が必要です。
<b>手足口病</b>		夏にピークを迎え、その後減少しましたが、現在は横ばい状態です。秋に小さな流行が見られることがありますので今後の動向に注意が必要です。

○：流行、△：やや流行、◇：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ **麻しん（はしか）**に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！
- ・ **インフルエンザ**に気をつけましょう。8 月下旬に市内の全寮制の訓練校でインフルエンザの集団発生がありました。予防には、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。
- ・ **腸管出血性大腸菌感染症**（O157 等）に注意が必要です。



生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1 分間以上）をしましょう。また、手洗いを心がけ、特にトイレの後や搾乳体験の時など動物とふれあった後には、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。



## 4. 予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）の予防接種を受けましょう。

平成 20 年 4 月 1 日から、1 期（1 歳）と 2 期（小学校入学前の 1 年間に加え、3 期（中 1 相当の年齢）、4 期（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。しかし、1 期、2 期の予防接種率は低水準で、依然集団感染等のリスクがあります。

また、横浜市では、緊急対策として、1 歳～高校 3 年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種（任意接種）を実施しています。 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

**是非、この機会に接種を受けましょう！**

- ・ インフルエンザの予防接種を受けましょう。

横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ\\_yobou.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html)

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成20年10月

麻しん（はしか）は、9月に引き続き減少しています。

現在までに1400例以上の報告があり、全国の約14%です。10代が過半数を占め、予防接種前の0歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。

腸管出血性大腸菌感染症（O157等）は5例報告されています。

レジオネラ症は6例の報告がありました。1月からの報告数は28例となり、現時点で多かった昨年1年間と同じ報告数です。

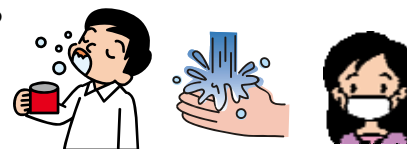
## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 20 年 9 月 29 日～11 月 2 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		過去6年間で最も流行開始が早かった昨年と同時期に初発の報告がありました。今後の動向に注意が必要です。
<u>RSウイルス感染症</u>		例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。乳児や疾患を持つ幼児では重症になりやすく、注意が必要です。
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		現在は少ないですが、例年、冬季にもピークが見られるので、今後の動向に注意が必要です。
<u>手足口病</u>		夏にピークを迎え、その後減少しましたが、現在は横ばい状態です。今後の動向に注意が必要です。
<u>百日咳</u>		例年より多くなっており、三種混合予防接種後の幼児や成人の報告例も見られます。注意が必要です。

：流行、　：やや流行、　：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！
- ・ インフルエンザに気をつけましょう。第40週（9月29日～10月5日）に市内で今シーズン初発のA型インフルエンザの報告があり、第41週（10月6日～10月12日）にはB型インフルエンザの初発の報告がありました。予防には、予防接種、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。
- ・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行する感染症です。最も有効な感染予防策は手洗いです。



## 4. 予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）の予防接種を受けましょう。

横浜市では、緊急対策として、1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種（任意接種）を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

- ・ インフルエンザの予防接種を受けましょう。

横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ\\_yobou.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html)

是非、この機会に接種を受けましょう！



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

子ども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症( 感染症法における 1～5 類感染症 )平成20年11月

麻しん(はしか)は、6 例の報告がありました。

現在までに 1400 例以上の報告があり、全国の約 14%です。10 代が過半数を占め、予防接種前の 0 歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。

腸管出血性大腸菌感染症 (O157 等)は 11 例の報告がありました。

レジオネラ症は 2 例の報告がありました。1 月からの累計報告数は 30 例となり、現時点で多かった昨年 1 年間の報告数 28 例を上回っています。

## 2. 定点報告感染症 ( 感染症法における 5 類感染症 ) 平成20年10月27日～11月30日

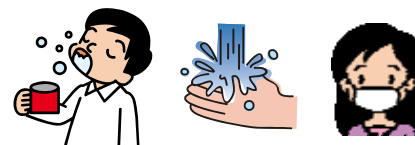
疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		これまでに、西、中以外の16区から報告があり、区によってはすでに流行期に入りつつあります。
<u>RSウイルス感染症</u>		例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。乳児や疾患を持つ幼児では重症になりやすく、注意が必要です。
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		例年、冬季にも流行が見られるので、今後の動向に注意が必要です。
<u>感染性胃腸炎</u>		流行の大きかった一昨年ほどではありませんが、昨年と同じくらいを推移しています。今後は増えていくと思われるので動向に注意が必要です。
<u>百日咳</u>		例年より報告が多くなっており、三種混合予防接種後の幼児や成人の報告例も見られます。注意が必要です。

：流行、　：やや流行、　：散発、×：患者報告なし

：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ 麻しん(はしか)に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！
- ・ インフルエンザに気をつけましょう。今年は過去 6 年間で最も流行開始が早かった昨年と同時期に初発の報告がありました。予防には、予防接種、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。
- ・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行する感染症です。最も有効な感染予防策は手洗いです。



## 4. 予防接種について

- ・ 麻しん(はしか)の予防接種を受けましょう。  
横浜市では、緊急対策として、1 歳～高校 3 年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっている方への、市費による予防接種(任意接種)を実施しています。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>
- ・ インフルエンザの予防接種を受けましょう。  
横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。  
[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ\\_yobou.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html)  
**是非、この機会に接種を受けましょう！**

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken>





横浜市感染症発生動向調査事業概要  
平成 20 年(2008 年)

横浜市健康福祉局衛生研究所感染症・疫学情報課  
平成 22 年 3 月発行  
〒235-0012 横浜市磯子区滝頭 1-2-17  
Tel 045(754)9815  
Fax 045(754)2210

紙へリサイクル可